

学校・学科・教育制度等の現状

令和5年7月7日

青森県教育委員会

目 次

I	学校・学科・教育制度の現状	1
i	全日制の課程	1
1	学科等の現状	1
(1)	普通科等	1
①	普通科	2
②	理数科	5
③	外国語科	7
④	スポーツ科学科	9
⑤	表現科	11
(2)	職業教育を主とする専門学科	13
①	農業科	14
②	工業科	17
③	商業科	21
④	水産科	24
⑤	家庭科	27
⑥	看護科	30
(3)	総合学科	33
2	各高等学校における教育環境の充実	36
(1)	全ての高等学校に共通して求められる教育環境	36
(2)	重点校	40
(3)	拠点校	43
ii	定時制・通信制の課程	46
1	定時制の課程	46
2	通信制の課程	49
3	多様な教育制度の現状	52
(1)	全日制普通科単位制	52
(2)	総合選択制	53
(3)	併設型中高一貫教育	54
II	教育活動の充実に向けた取組	55
i	スクール・ミッション等	55
ii	「あおもり創造学」の推進	55
iii	地域校の活性化	55
iv	コンソーシアム（共同事業体）の構築	56
v	全国からの生徒募集	57
vi	ドリカム人づくり推進事業	57
vii	スーパーサイエンスハイスクール（文部科学省事業）	58
viii	スーパーグローバルハイスクール（文部科学省事業）	59

I 学校・学科・教育制度の現状

i 全日制の課程

1 学科等の現状

(1)普通科等

青森県立高等学校将来構想検討会議における答申（平成28年1月）

- 今後とも、グローバル・リーダーとして社会を牽引する人財や社会人・職業人として自立し、地域を支え、社会に貢献する人財等の育成に取り組む必要がある。このため、各高等学校が連携しながら、選抜性の高い大学への進学対応、高等学校卒業後の就職への対応等、幅広い教育を提供する役割が一層求められる。
- また、変化し続ける社会環境や高等学校教育を巡る状況に対応するため、中学生や保護者のニーズを踏まえた上で、理数科、英語科、外国語科、スポーツ科学科及び表現科については、専門学科としての設置意義を改めて見直し、検討する必要がある。

県立高等学校教育改革推進計画基本方針

（平成28年8月策定 / 令和2年8月改定）

- 普通科等においては、各地域の実情に応じた教育活動、グローバル教育や理数教育の取組等、各高等学校において特色ある教育活動に取り組むとともに、望ましい勤労観・職業観を涵養し、地域や社会に貢献する態度を育むなど、キャリア教育の充実を図ります。
- 各高等学校が連携しながら、大学等への進学対応や就職への対応等、生徒の幅広い進路志望に対応する指導に取り組めます。
- 理数、外国語、スポーツ科学、表現の普通科系の各専門学科においては、社会の変化や生徒の興味・関心、進路志望の多様化に対応してきましたが、それぞれの学科が設置された当時とは高等学校教育を巡る環境が変化してきていることから、専門学科としての役割、中学生のニーズ等を十分に検証し、設置意義を改めて見直します。

① 普通科

ア 青森県立高等学校将来構想検討会議における答申（平成28年1月）

○ 今後は、グローバル教育や理数教育、医学部医学科進学等に重点的に取り組む学校や、各地域の実態に根ざした教育活動に取り組む学校など各高等学校の特色化を図り、生徒の多様な進路志望に対応する必要がある。

各高等学校の特色化に当たっては、単位制の導入により選択科目の充実等を図ることのほか、職業に関する専門科目を履修できるコース等の設置について検討する必要がある。

イ 大学科の概要

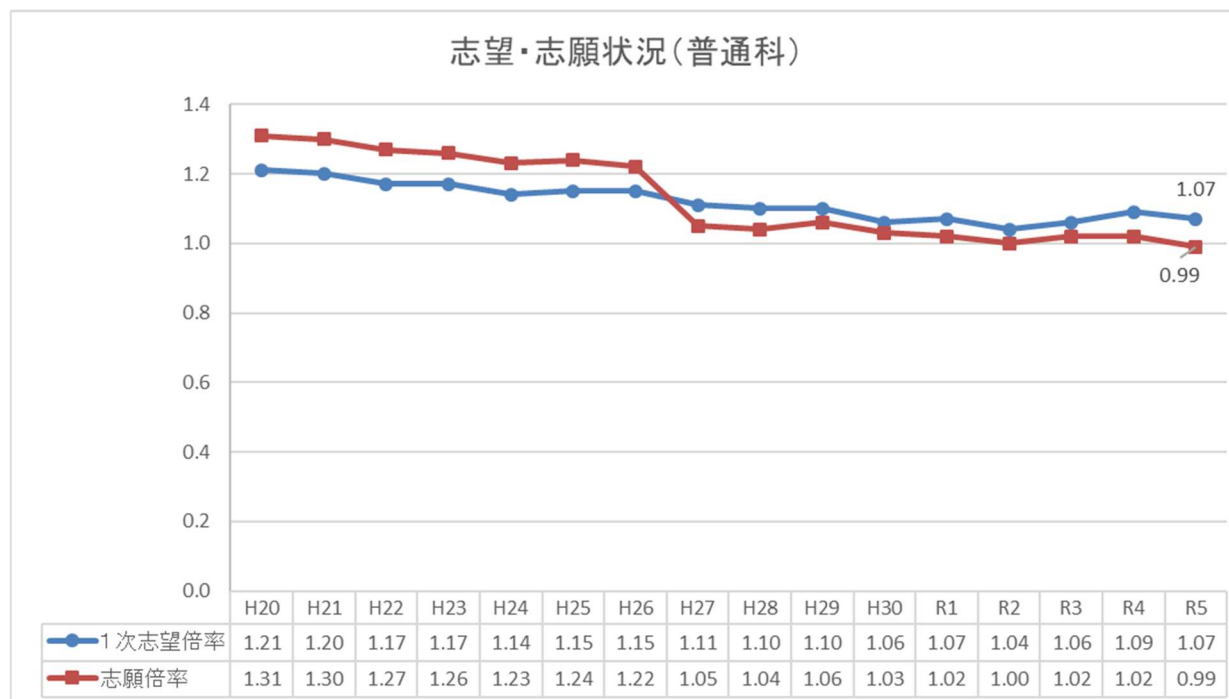
普通教育を主とする学科。国語、地理歴史、公民、数学、理科、保健体育、芸術、外国語、家庭、情報などの教科・科目を中心に学習する。

ウ 設置校（令和5年度に生徒を募集した学校：26校）

地区	学校名(R5 募集人数)
東青	青森(240)、青森西(240)、青森東(240:⊕)、青森北(160)、青森南(160)、浪岡(70)
西北	五所川原(160)、鱒ヶ沢(40)、五所川原工科(70)
中南	弘前(240)、弘前中央(240)、弘前南(200:⊕)、黒石(120)
上北	三本木(240)、三沢(240)、野辺地(80)、百石(80)、六ヶ所(40)、三本木農業恵拓(70)
下北	田名部(200:⊕)、大間(70)
三八	八戸(240)、八戸東(200)、八戸北(240:⊕)、八戸西(200)、三戸(40)

(⊕は単位制、それ以外は学年制)

工 志望・志願状況



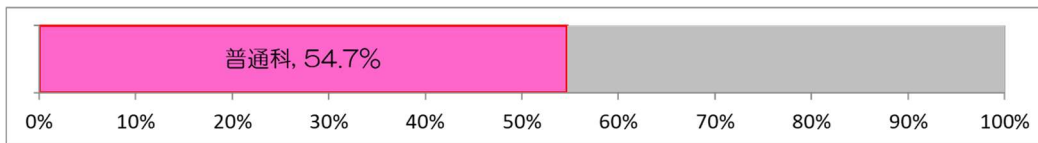
(進路志望状況第一次調査、県教育委員会HPより)

※1 志望倍率は、募集人数に対する進路志望第1次調査(前年11月実施)の志望者数の割合

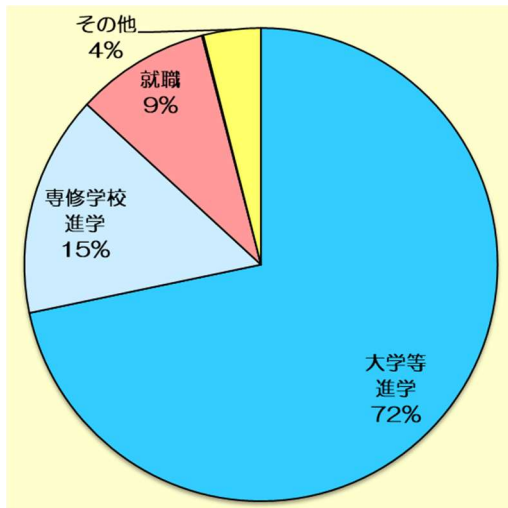
※2 志願倍率は、募集人数に対する青森県立高等学校入学者選抜の志願者数の割合

(以下、他学科も同じ)

才 進路状況（令和4年3月卒業生）
〔全日制課程卒業者に占める普通科の割合〕



〔進路状況〕



卒業生数	大学等進学	専修学校進学	就職	一時的な仕事	その他
4,102	2,942	620	375	4	161

（学校基本調査、高等学校等卒業生の進路状況調査より）

※「大学等進学」とは、大学、短期大学、放送大学、高等学校専攻科等への進学。

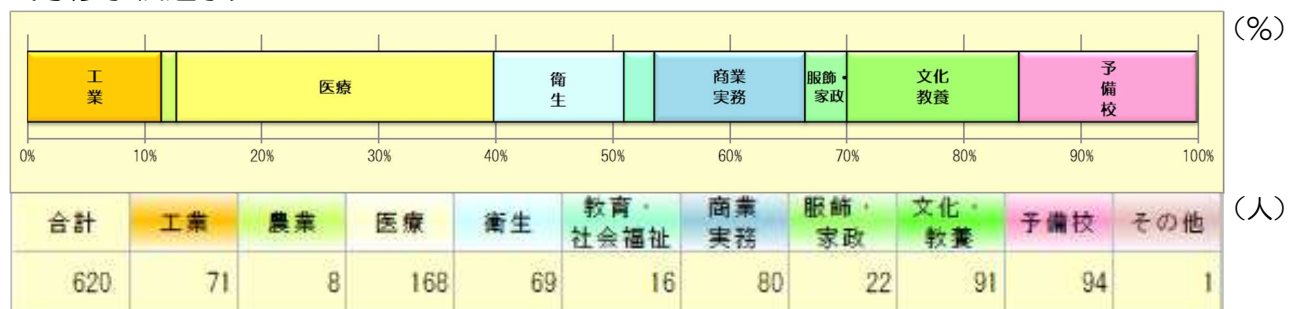
「専修学校進学」とは、専修学校、各種学校、公共職業能力開発施設等への進学。

「その他」とは、家事手伝いをしている者、外国の大学等に入学した者、進路が未決定の者等。

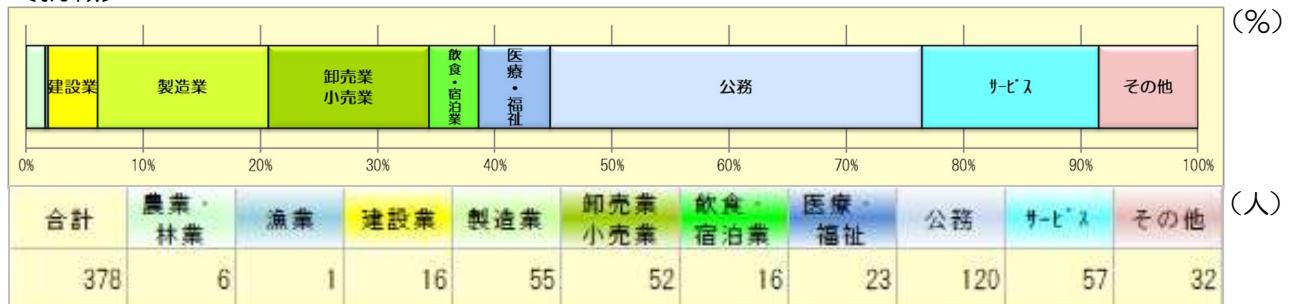
〔大学等進学〕



〔専修学校進学〕



〔就職〕



※進学しかつ就職した者等を含む（3人）

②理数科

ア 青森県立高等学校将来構想検討会議における答申（平成28年1月）

○ 科学技術系人材の育成に向け、学校教育全体で理数教育を充実するための取組が一層求められている。このような状況の中、理数科については、設置意義、普通科単位制への転換による選択科目としての充実等を含め、その役割を改めて見極め、検討する必要がある。

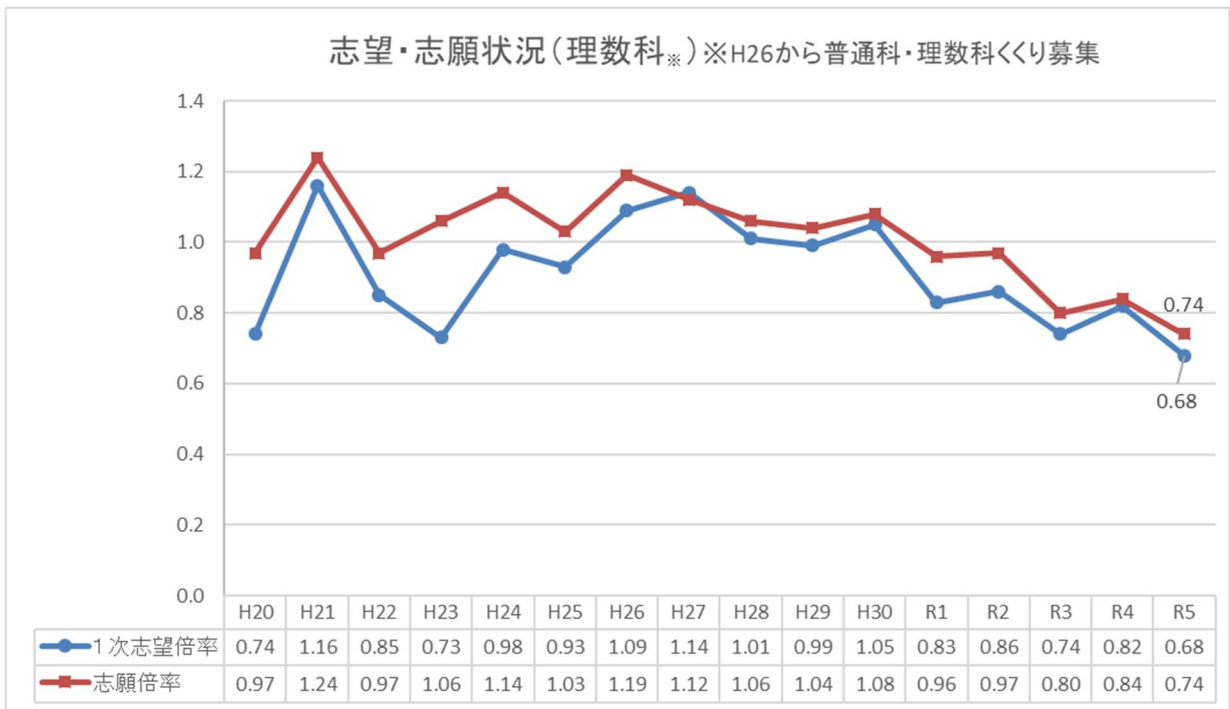
イ 大学科の概要

科学及び数学における基本的な概念、原理・法則などについての系統的な理解を深め、科学的、数学的に考察し表現する能力と態度を育て、創造的な能力を高めることを目指す学科。

ウ 設置校（令和5年度に生徒を募集した学校：1校）

地区	学校名(R5 募集人数)
西北	五所川原(40)

エ 志望・志願状況

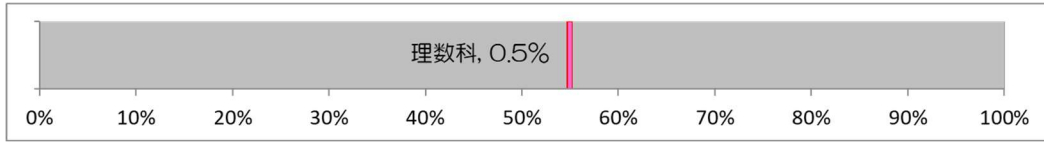


（進路志望状況第一次調査、県教育委員会HPより）

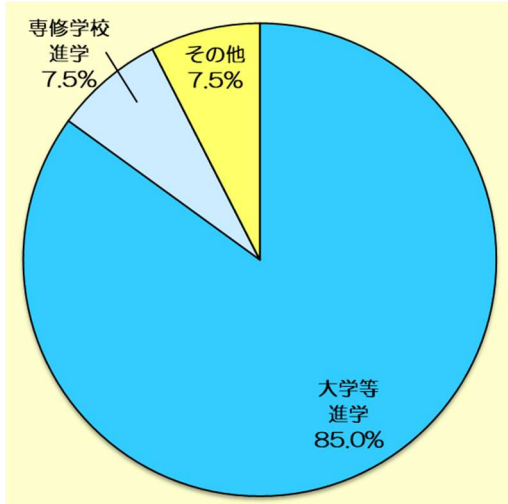
※平成26年度から普通科とのくくり募集

才 進路状況（令和4年3月卒業生）

〔全日制課程卒業者に占める理数科の割合〕



〔進路状況〕



(人)

卒業生数	大学等進学	専修学校進学	就職	一時的な仕事	その他
40	34	3	0	0	3

(学校基本調査、高等学校等卒業生の進路状況調査より)

〔大学等進学〕



〔専修学校進学〕



③外国語科

ア 青森県立高等学校将来構想検討会議における答申（平成28年1月）

○ グローバル化の進展の中で、学校教育全体として、真に使える英語の能力を身に付けることが求められており、全ての高等学校でグローバル化に対応した英語教育に取り組む必要がある。このような状況の中、英語科及び外国語科については、設置意義、くくり募集の導入、学校全体を国際理解教育の中核的役割を担う学校として位置付けること、普通科単位制への転換による選択科目としての充実等を含め、その役割を改めて見極め、検討する必要がある。

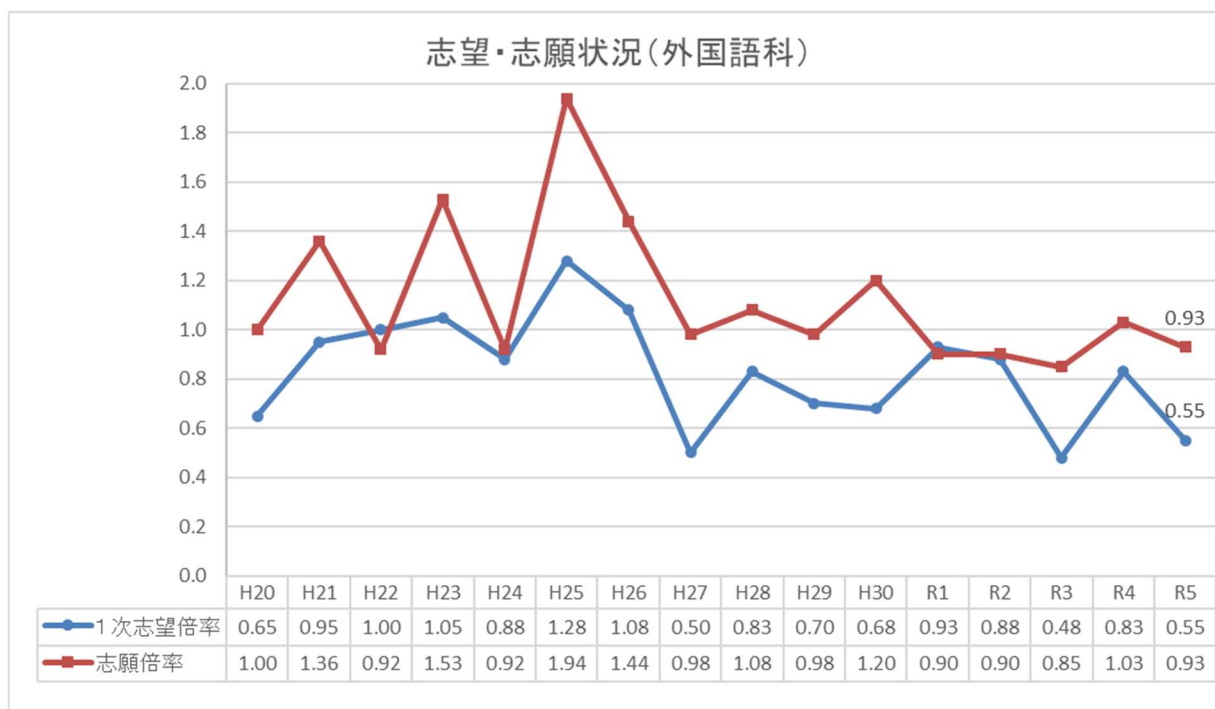
イ 大学科の概要

外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりするコミュニケーション能力を養うことを目指す学科。

ウ 設置校（令和5年度に生徒を募集した学校：1校）

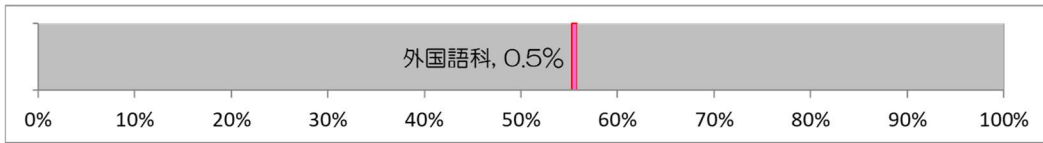
地区	学校名 (R5 募集人数)
東青	青森南 (40)

エ 志望・志願状況

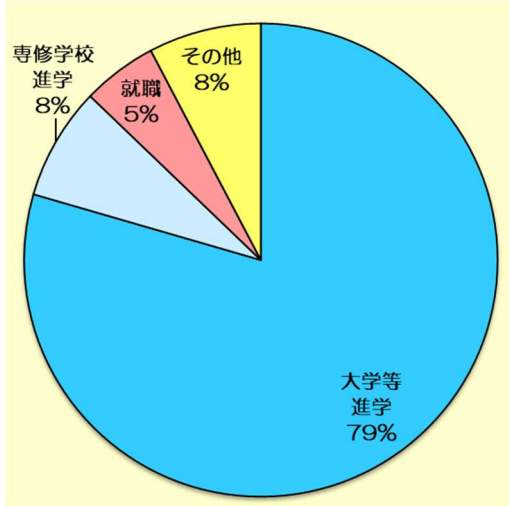


（進路志望状況第一次調査、県教育委員会HPより）

才 進路状況 (令和4年3月卒業生)
〔全日制課程卒業者に占める外国語科の割合〕



〔進路状況〕



(人)

卒業生数	大学等進学	専修学校進学	就職	一時的な仕事	その他
39	31	3	2	0	3

(学校基本調査、高等学校等卒業者の進路状況調査より)

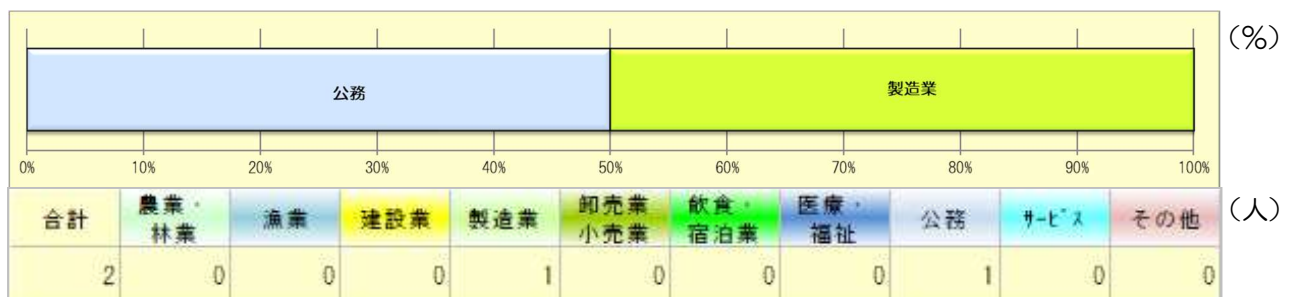
〔大学等進学〕



〔専修学校進学〕



〔就職〕



④スポーツ科学科

ア 青森県立高等学校将来構想検討会議における答申（平成28年1月）

○ 今後とも、高等学校教育のみならず、県全体として、生涯を通してスポーツの振興・発展に寄与する人財を育成することが求められる。このような状況の中、スポーツ科学科については、高等学校卒業後の進路等の現状を踏まえながら、設置意義等その役割を改めて見極め、検討する必要がある。

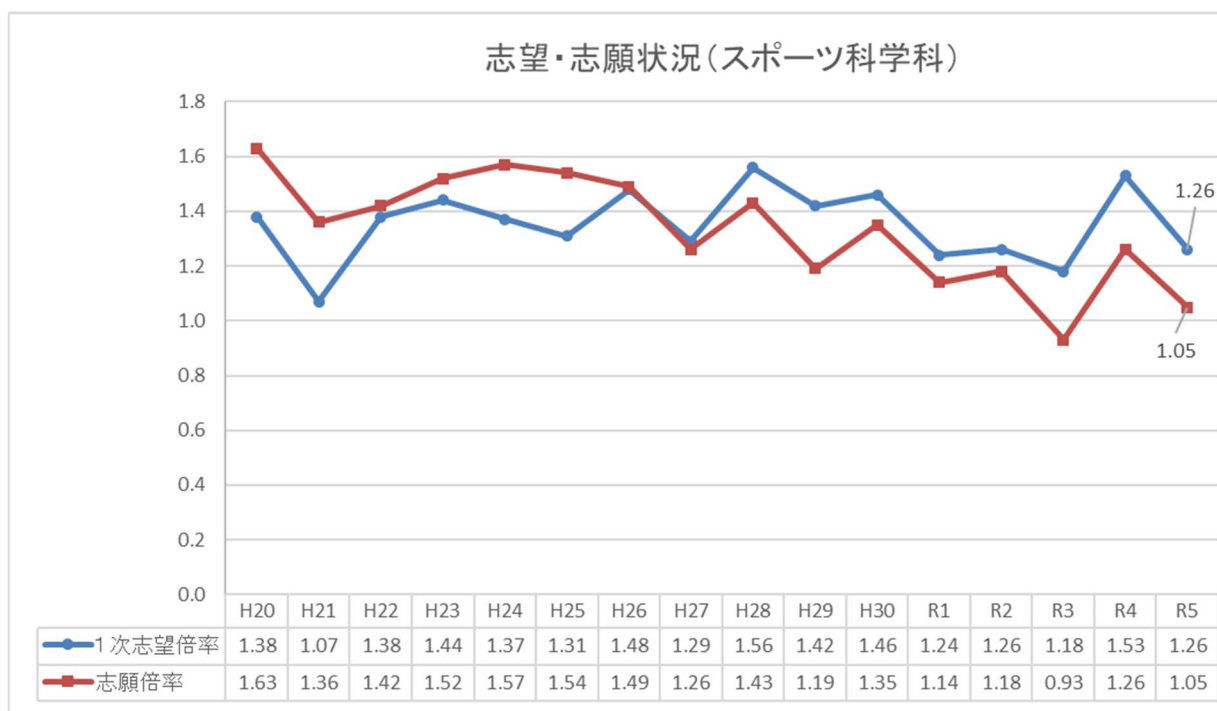
イ 大学科の概要

心と体を一体としてとらえ、スポーツについての専門的な理解及び高度な技能の習得を目指した主体的、合理的、計画的な実践を通して、健やかな心身の育成に資するとともに、生涯を通してスポーツの振興発展に寄与する資質や能力を育て、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を育てることを目指す学科。

ウ 設置校（令和5年度に生徒を募集した学校：3校）

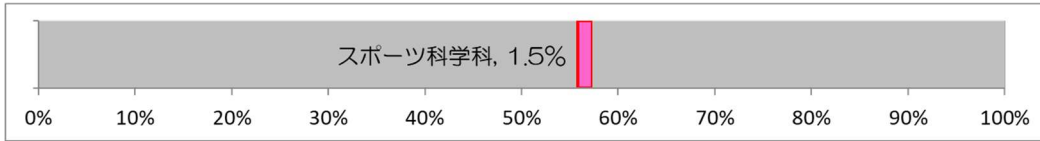
地区	学校名 (R5 募集人数)
東青	青森北 (40)
中南	弘前実業 (40)
三八	八戸西 (40)

エ 志望・志願状況

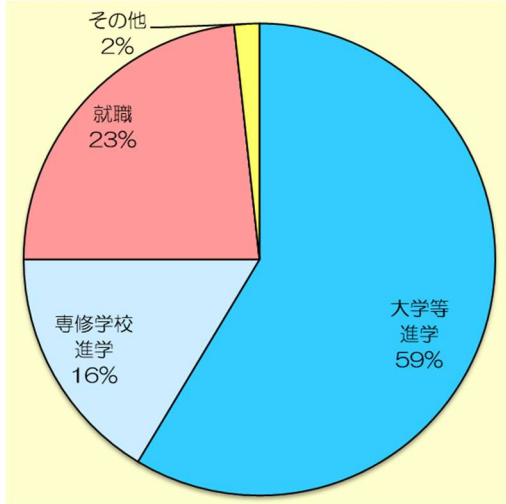


(進路志望状況第一次調査、県教育委員会HPより)

才 進路状況（令和4年3月卒業生）
〔全日制課程卒業者に占めるスポーツ科学科の割合〕



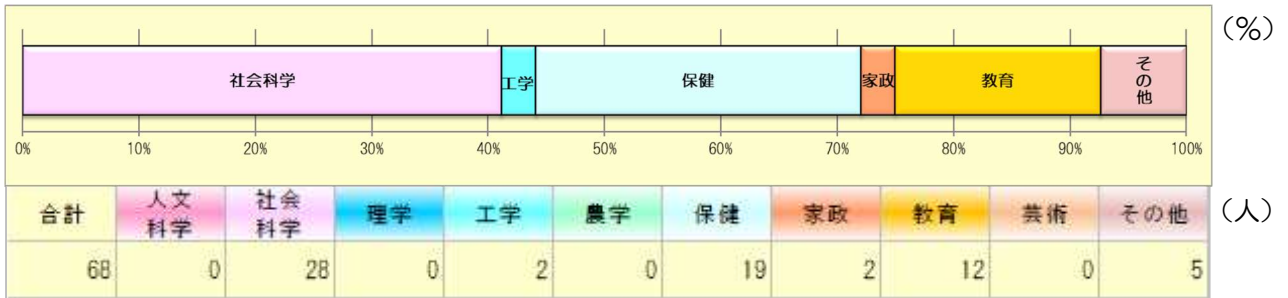
〔進路状況〕



卒業生数	大学等進学	専修学校進学	就職	一時的な仕事	その他
116	68	19	27	0	2

（学校基本調査、高等学校等卒業者の進路状況調査より）

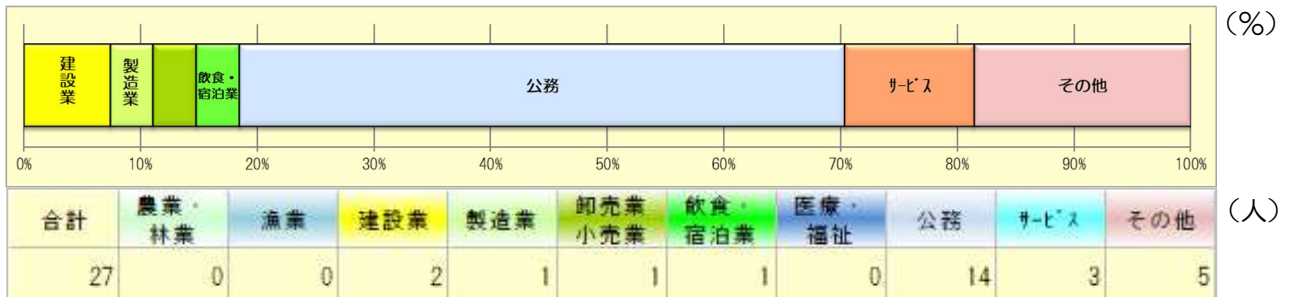
〔大学等進学〕



〔専修学校進学〕



〔就職〕



⑤表現科

ア 青森県立高等学校将来構想検討会議における答申（平成28年1月）

○ 生徒の多様な興味・関心等への対応を目的として設置された学科であるが、近年、生徒の進路志望には、普通科の生徒と同様に大学進学を目指す傾向が見られる。このような状況の中、表現科については、設置意義、普通科単位制への転換による選択科目としての充実等を含め、その役割を改めて見極め、検討する必要がある。

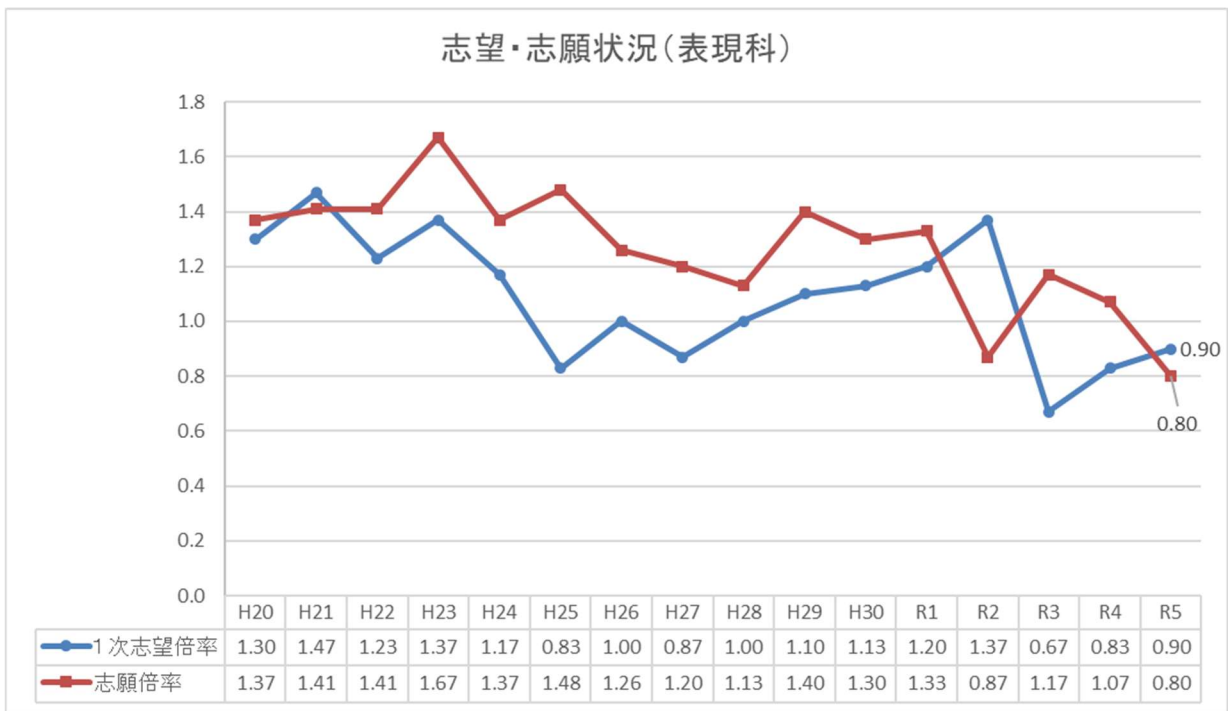
イ 大学科の概要

表現に関する専門的な学習を通して、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養いながら、豊かな情操と創造性を育成することを目指す学科。

ウ 設置校（令和5年度に生徒を募集した学校：1校）

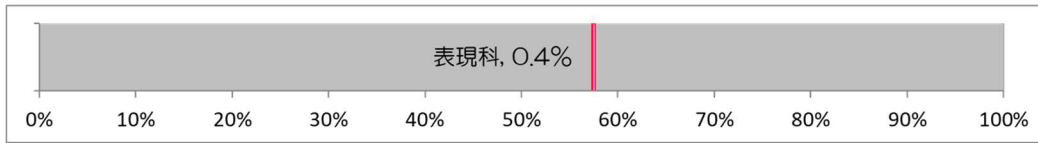
地区	学校名(R5 募集人数)
三八	八戸東(30)

エ 志望・志願状況

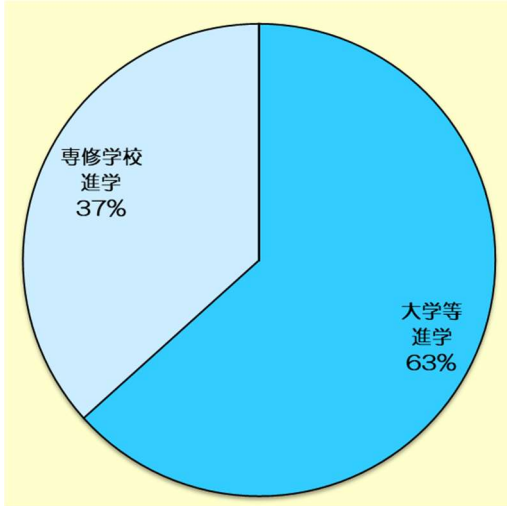


（進路志望状況第一次調査、県教育委員会HPより）

才 進路状況（令和4年3月卒業生）
〔全日制課程卒業者に占める表現科の割合〕



〔進路状況〕

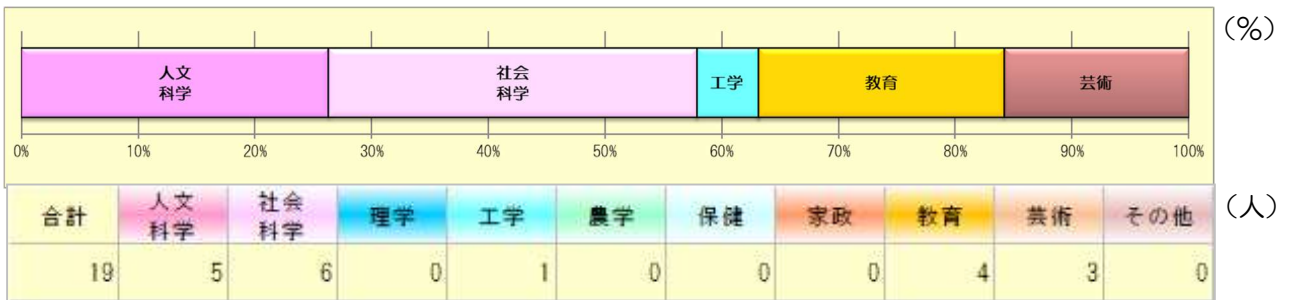


(人)

卒業生数	大学等進学	専修学校進学	就職	一時的な仕事	その他
30	19	11	0	0	0

〔学校基本調査、高等学校等卒業者の進路状況調査より〕

〔大学等進学〕



〔専修学校進学〕



(2)職業教育を主とする専門学科

青森県立高等学校将来構想検討会議における答申（平成28年1月）

- 技術革新の進展等に伴い、産業界で必要な専門知識や技能が高度化するとともに、従来の産業分類を超えた複合的な産業が発展していることから、職業人として求められる基礎的・基本的な知識・技能に加え、職業の多様化に対応できる資質・能力を育み、高等学校卒業後も学び続ける態度を身に付ける必要がある。
- また、大学等へ進学する生徒が増加してきており、高等学校段階で身に付けるべき学力の確実な習得を図るとともに、専門的な資格の取得を目指した教育活動等、大学との接続も視野に入れた職業教育の充実に取り組む必要がある。
- 今後の生徒数の急激な減少に対応しながら教育活動の充実を図るためには、各専門分野における幅広い学習内容を提供する学校の設置や、各学校が連携する体制の整備が必要である。
また、幅広い視野を培い、社会人・職業人としての意識を高める教育活動を展開するため、一つの学科・学校としてだけでなく、他の学科・学校や地域の産業界等との一層の連携に努める必要がある。
- 社会の要請等により専門化・細分化してきた学科については、これからの時代に求められる力を育むため、地域の産業構造に留意しつつ、各専門分野の基礎・基本を重視した学科への見直しを検討する必要がある。

県立高等学校教育改革推進計画基本方針

（平成28年8月策定 / 令和2年8月改定）

- 職業教育を主とする専門学科においては、職業人として求められる基礎的・基本的な知識・技能に加え、職業の多様化に対応できる資質・能力、高等学校卒業後も学び続ける態度を育みます。
- 高等学校段階で身に付けるべき学力の確実な習得や専門的な資格取得を目指した教育活動等、大学との接続を視野に入れた取組を進めるとともに、地域、企業、他の学校との連携等を推進します。
- 社会の要請等により専門化・細分化してきた学科については、地域の産業構造に留意しつつ、各専門分野の基礎・基本を重視した学科への見直しを検討します。
- 本県の県立高等学校では設置していない情報及び福祉に関する学科については、生徒数が減少する中であって、中学生のニーズ、就業状況等を踏まえ、専門学科としての設置の必要性を検討します。

① 農業科

ア 青森県立高等学校将来構想検討会議における答申（平成28年1月）

- 今後は、農業に関する幅広い学習内容を提供できる学校を設置し、寄宿舍の活用などによって、より広い地域から入学者を受け入れることが可能となる方法を検討するとともに、それ以外の農業科においても、各地域の特色に応じた農業を学ぶことに主眼を置くなど、県全体としての在り方を検討する必要がある。
- また、環境保全型農業の実施や農業の6次産業化等、これからの農業経営に必要な力を身に付けるため、大学等への進学に向けた指導や、地域、大学、営農大学校、他の学校等との連携・協力を推進する必要がある。

イ 大学科の概要

農業の各分野に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、農業の社会的な意義や役割について理解させるとともに、農業に関する諸課題を主体的、合理的に、かつ倫理観をもって解決し、持続的かつ安定的な農業と社会の発展を図る創造的な能力と実践的な態度を育てることを目指す学科。

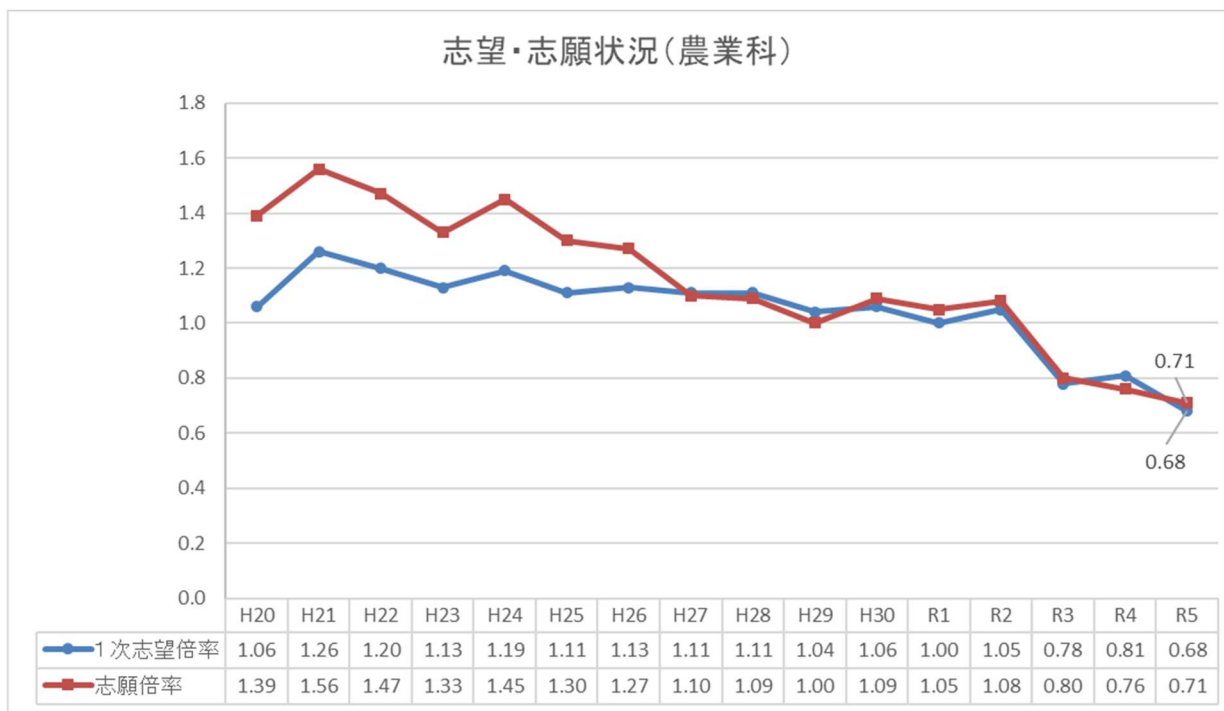
ウ 設置校（令和5年度に生徒を募集した学校：4校）

地区	設置校	小学科 (R5 募集人数)
西北	五所川原農林	生物生産(35)、森林科学(35)、環境土木(35)、食品科学(35)
中南	柏木農業	生物生産(35)、環境工学(35)、食品科学(35)、生活科学(35)
上北	三本木農業恵拓	植物科学(35)、動物科学(35)、環境工学(35)、食品科学(35)
三八	名久井農業	生物生産(35)、環境システム(35)

エ 小学科の概要

小学科名	学科の概要	学科に関する科目 (学校設定科目を除く)
生物生産	農業生産に関する知識、技術のほか、環境保全型農業や植物バイオテクノロジー等について学習。	作物、野菜、果樹
植物科学	作物生産や植物バイオテクノロジー、施設園芸等について学習。	作物、野菜、草花
森林科学	森林の育成のほか、森林環境保全や林産資源活用について学習。	森林科学、森林経営、林産物利用
動物科学	牛・豚・鶏等の家畜生産や畜産経営、馬や愛玩動物等の管理と活用について学習。	畜産、食品製造、飼育と環境
環境工学	農業機械や造園のほか、環境保全型農業などについて学習。	農業機械、農業土木施工、測量
環境土木	農業土木のほか、地域環境の創造や保全等について学習。	農業土木設計、農業土木施工、測量
環境システム	都市近郊農業に対応し、施設園芸の生産・経営及び生産設備について学習。	栽培と環境、農業機械、草花
食品科学	食品の製造・分析・管理及び流通に関する知識、技術について学習。	食品製造、食品化学、食品微生物
生活科学	食生活や被服、フラワーアレンジや園芸福祉等のヒューマンサービスに関する知識、技術について学習。	草花、生物活用

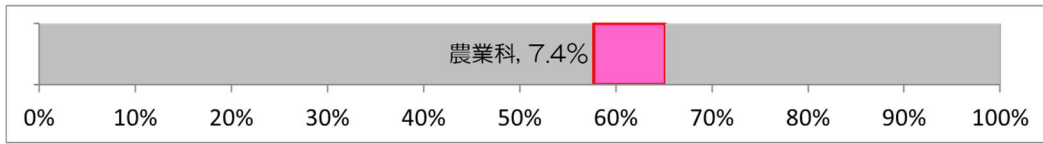
オ 志望・志願状況



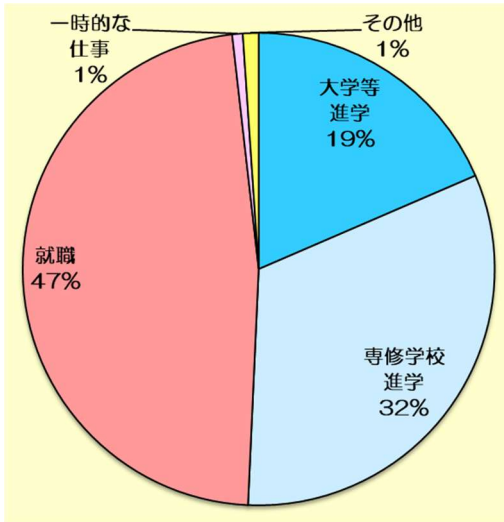
(進路志望状況第一次調査、県教育委員会HPより)

力 進路状況（令和4年3月卒業生）

〔全日制課程卒業者に占める農業科の割合〕



〔進路状況〕



卒業生数	大学等進学	専修学校進学	就職	一時的な仕事	その他
556	103	179	264	4	6

（学校基本調査、高等学校等卒業生の進路状況調査より）

〔大学等進学〕



〔専修学校進学〕



〔就職〕



※進学しかつ就職した者等を含む（4人）

②工業科

ア 青森県立高等学校将来構想検討会議における答申（平成28年1月）

- 今後は、基幹となる学科（機械、電気、電子、建築、土木）を中心に、基礎的・基本的な知識・技能を身に付けながら、新しい技術も学ぶことのできる学校を設置するとともに、それ以外の工業科においても、各地域の産業構造に合わせた学習内容を引き続き提供できるよう、その在り方を検討する必要がある。
- また、高度な技術を身に付けた工業技術者や研究者の育成に向け、大学等への進学を目指した工業高校の在り方について検討するとともに、進路意識や学習意欲の向上等のため、大学、企業等との連携・協力を推進する必要がある。

イ 大学科の概要

工業の各分野に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、現代社会における工業の意義や役割を理解させるとともに、環境及びエネルギーに配慮しつつ、工業技術の諸問題を主体的、合理的に、かつ倫理観をもって解決し、工業と社会の発展を図る創造的な能力と実践的な態度を育てることを目指す学科。

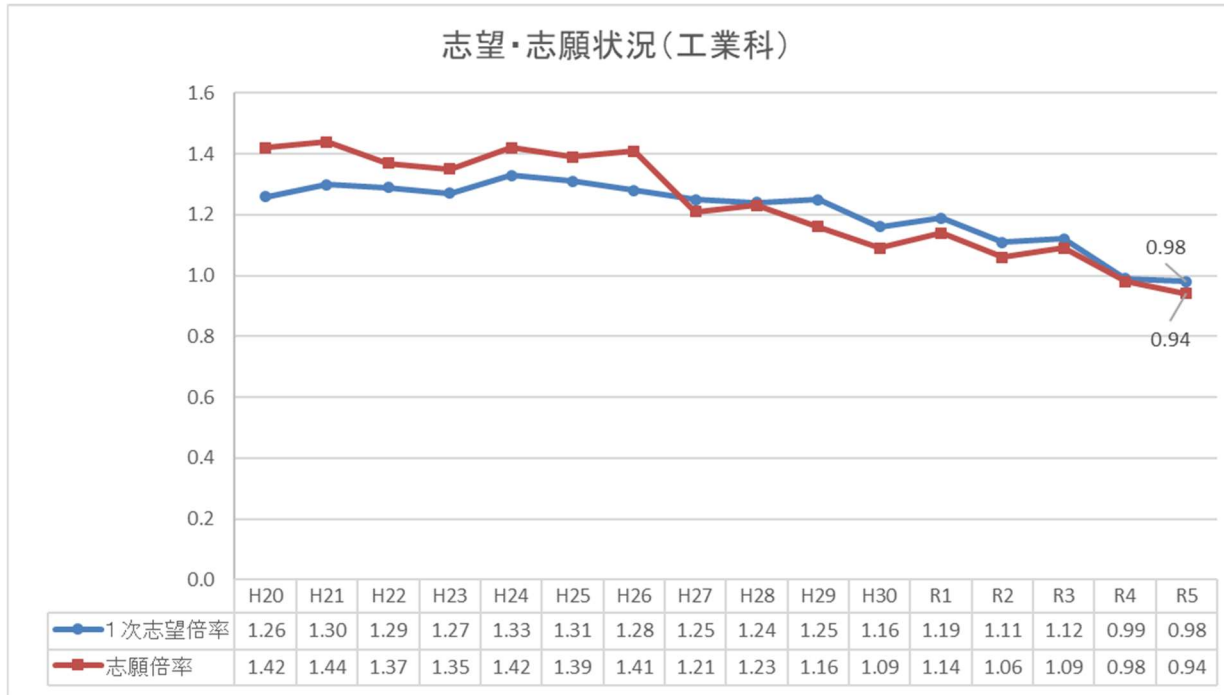
ウ 設置校（令和5年度に生徒を募集した学校：6校）

地区	設置校	小学科(R5 募集人数)
東青	青森工業	機械(35)、電気(35)、電子(35)、情報技術(35)、建築(35)、都市環境(35)
西北	五所川原工科	機械(35)、電子機械(35)、電気(35)
中南	弘前工業	機械(35)、電気(35)、電子(35)、情報技術(35)、土木(35)、建築(35)
上北	十和田工業	機械・エネルギー(35)、電気(35)、電子(35)、建築(35)
下北	むつ工業	機械(35)、電気(35)、設備・エネルギー(35)
三八	八戸工業	機械(35)、電気(35)、電子(35)、土木(35)、建築(35)、材料技術(35)

工 小学科の概要

小学科名	学科の概要	学科に関係する科目 (学校設定科目を除く)
機械	機械の設計、製作、各種切削加工、溶接、鋳造、組立技術のほか、マシニングセンタ等の自動加工技術について学習。	機械工作、機械設計、 原動機
電子機械	機械と電子についての知識、技術のほか、ロボットの操作やコンピュータ制御による工作技術などのメカトロニクスについて学習。	機械工作、機械設計、 プログラミング技術
電気	発電や送電、電気配線工事に関する知識、技術のほか、発電機や電動機の仕組みなどについて学習。	電気回路、電気機器、 電力技術
電子	電気、電子の知識に基づく回路設計、電子機器の製作技術のほか、情報通信の知識、技術を学習。	電子回路、通信技術、 電子計測制御
情報技術	コンピュータの仕組みやプログラミング等の利用、データ通信のほか、マルチメディア、データベースなどの技術革新に対応できる情報処理技術について学習。	プログラミング技術、 ハードウェア技術、 コンピュータシステム技術
土木	道路、鉄道、上下水道などの社会基盤整備に関する技術のほか、環境保全や測量について学習。	測量、土木構造設計、 土木施工
都市環境	土木に関する教育内容のほか、都市環境やエネルギーについて学習。	工業環境技術、測量、 土木構造設計
建築	建築物の設計や建築工事にかかわる知識、技術を学習。	製図、建築構造、 建築構造設計
機械・エネルギー	機械に関する教育内容のほか、電気自動車や燃料電池、太陽光など環境やエネルギーについて学習。	機械工作、機械設計、 エネルギー・環境
設備・エネルギー	各種設備機器、配管等に関する教育内容のほか、環境やエネルギー全般について学習。	設備計画、エネルギー概 論、エネルギー技術
材料技術	金属・セラミックス・プラスチック素材の性質、作り方、加工方法の基礎やリサイクル活用、エネルギー資源などを学習。	工業材料技術、材料工学、 材料加工

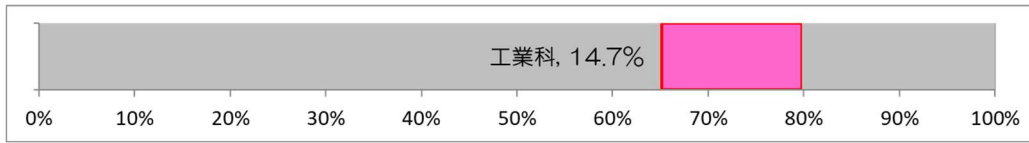
才 志望・志願状況



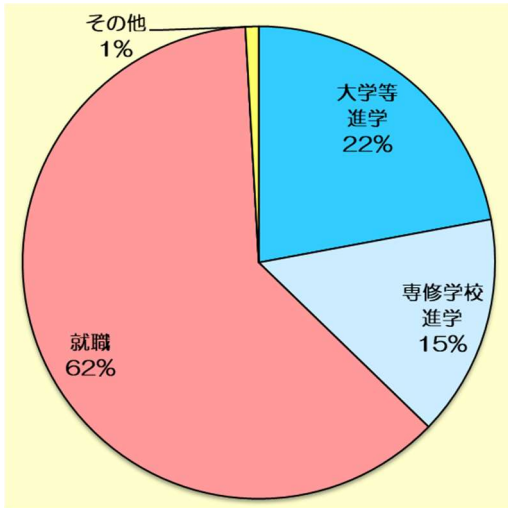
(進路志望状況第一次調査、県教育委員会HPより)

力 進路状況（令和4年3月卒業生）

〔全日制課程卒業者に占める工業科の割合〕



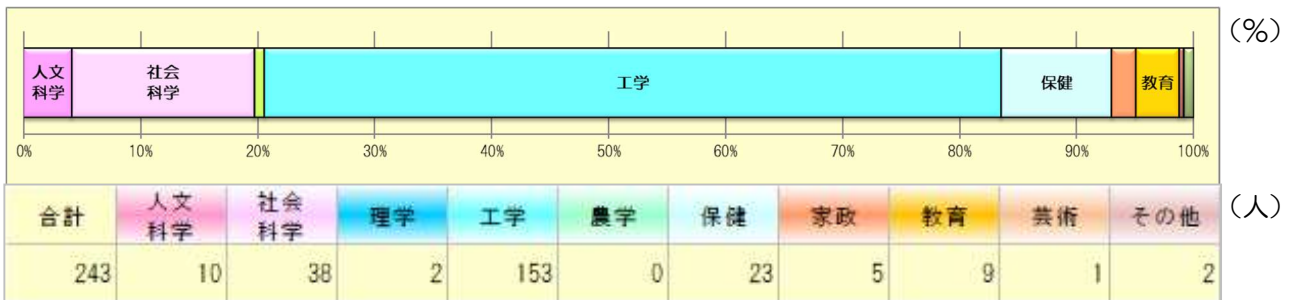
〔進路状況〕



卒業生数	大学等進学	専修学校進学	就職	一時的な仕事	その他
1,101	243	167	681	0	10

（学校基本調査、高等学校等卒業生の進路状況調査より）

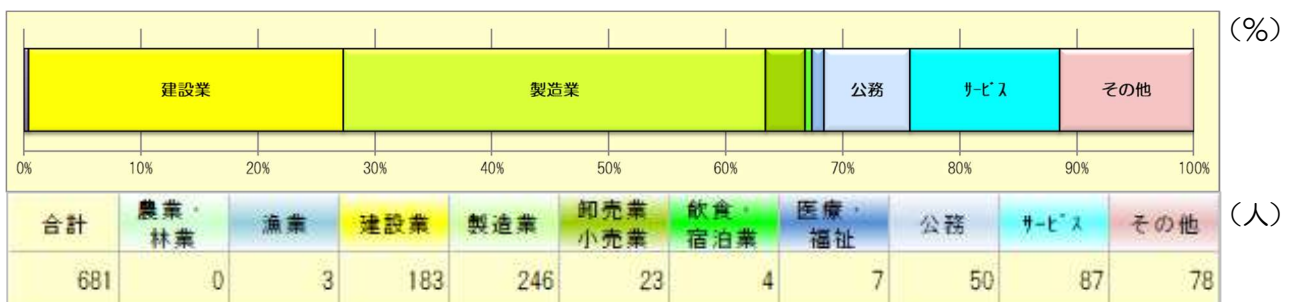
〔大学等進学〕



〔専修学校進学〕



〔就職〕



③商業科

ア 青森県立高等学校将来構想検討会議における答申（平成28年1月）

- 今後は、商業の学習分野であるマーケティング、ビジネス経済、会計、ビジネス情報の4分野に関する科目を幅広く開設し、商業科目を学習する普通科、総合学科等を含めた県全体の商業教育を牽引する学校を設置するとともに、それ以外の商業科においても、地域経済の発展に貢献する力を育成することができるよう、その在り方を検討する必要がある。
- また、公認会計士、税理士など、将来、商業分野のスペシャリストとなりうる人財の育成に向け、高等学校と大学の7年間を継続した専門教育の充実を図るとともに、県全体としての商業教育の充実に向け、他の学校、地域、企業等との連携・協力を推進する必要がある。

イ 大学科の概要

商業の各分野に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、ビジネスの意義や役割を理解させるとともに、ビジネスの諸活動を主体的、合理的に、かつ倫理観をもって行い、経済社会の発展を図る創造的な能力と実践的な態度を育てることを目指す学科。

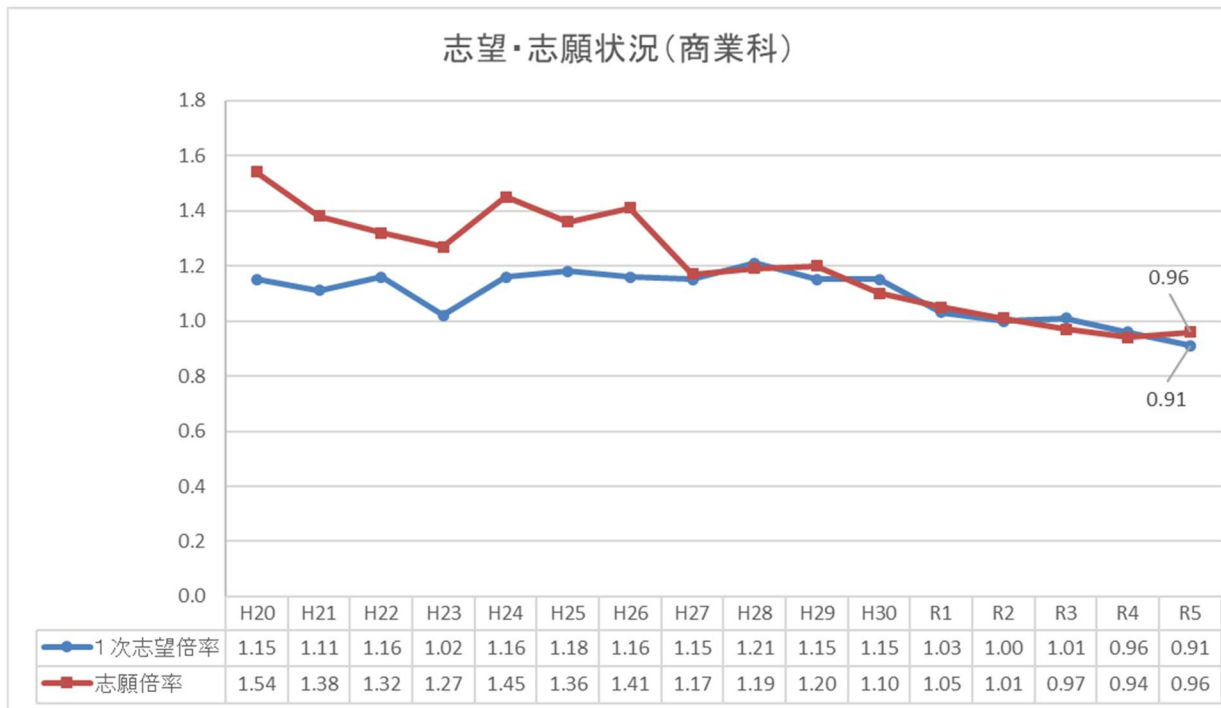
ウ 設置校（令和5年度に生徒を募集した学校：5校）

地区	設置校	小学科(R5 募集人数)	
東青	青森商業	商業(160)、情報処理(40)	※商業科と情報処理科でくり募集
中南	黒石	情報デザイン(40)	
	弘前実業	商業(80)、情報処理(40)	
上北	三沢商業	商業(80)、情報処理(40)	※商業科と情報処理科でくり募集
三八	八戸商業	商業(80)、情報処理(40)	

エ 小学科の概要

小学科名	学科の概要	学科に関する科目 (学校設定科目を除く)
商業	簿記や情報処理の専門知識を習得し、実社会で役に立つビジネスの仕組みについて学習。	マーケティング、財務会計Ⅰ、原価計算
情報処理	プログラマーなどのコンピュータ技術者を目指し、コンピュータに関する知識について学習。	ソフトウェア活用、プログラミング、ネットワーク活用
情報デザイン	様々なデザインの分野において活躍していける基礎的な知識、技術を習得。	ビジネス・コミュニケーション、マーケティング、商品開発と流通

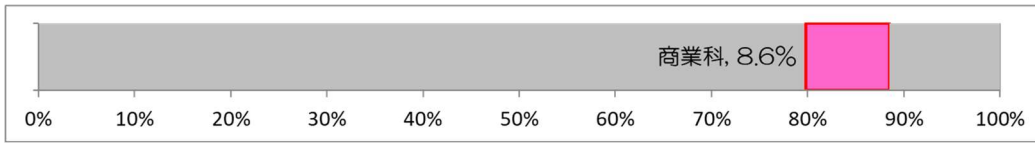
才 志望・志願状況



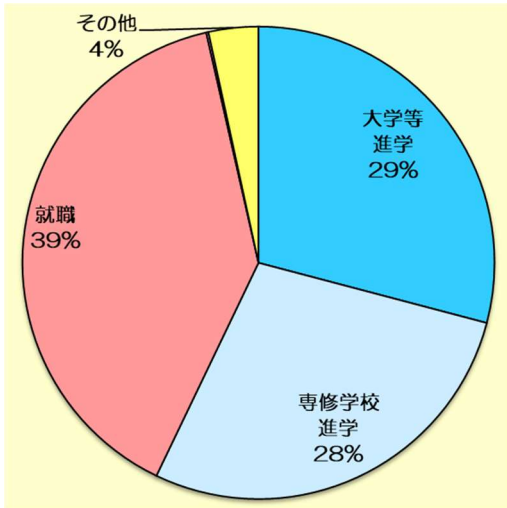
(進路志望状況第一次調査、県教育委員会HPより)

力 進路状況 (令和4年3月卒業者)

〔全日制課程卒業者に占める商業科の割合〕



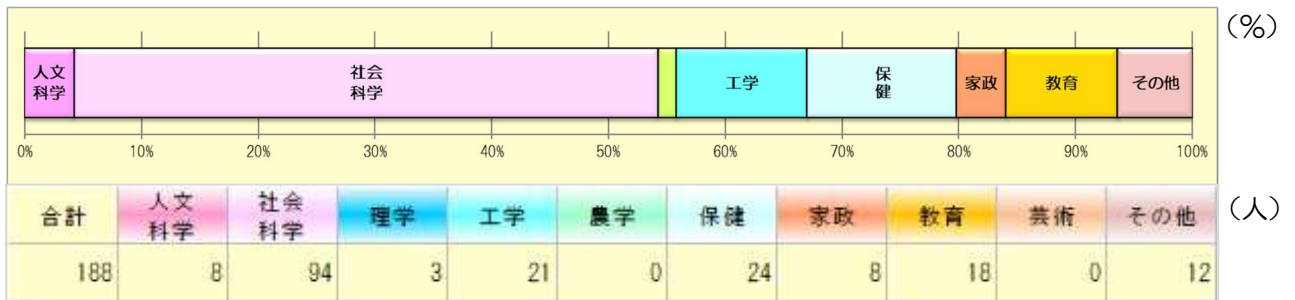
〔進路状況〕



卒業生数	大学等進学	専修学校進学	就職	一時的な仕事	その他
646	188	181	254	1	22

(学校基本調査、高等学校等卒業者の進路状況調査より)

〔大学等進学〕



〔専修学校進学〕



〔就職〕



④水産科

ア 青森県立高等学校将来構想検討会議における答申（平成28年1月）

- 今後とも、本県の水産業の振興に向け、安全・安心な食料供給産業の担い手を育成するとともに、水産教育を通して生きる力を育み、地域を支える人財を育成する必要がある。
- 水産業の6次産業化等、これからの水産業を担うために必要な力を身に付けるため、大学や専攻科への進学による専門性の向上、地域や他の学校との連携・協力を推進する必要がある。
- 専攻科においては、海技士（航海・機関）などの人財を引き続き育成する必要がある。

イ 大学科の概要

水産や海洋の各分野における基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、水産業及び海洋関連産業の意義や役割を理解させるとともに、水産や海洋に関する諸課題を主体的、合理的に、かつ倫理観をもって解決し、持続的かつ安定的な水産業及び海洋関連産業と社会の発展を図る創造的な能力と実践的な態度を育てることを目指す学科。

ウ 設置校（令和5年度に生徒を募集した学校：1校）

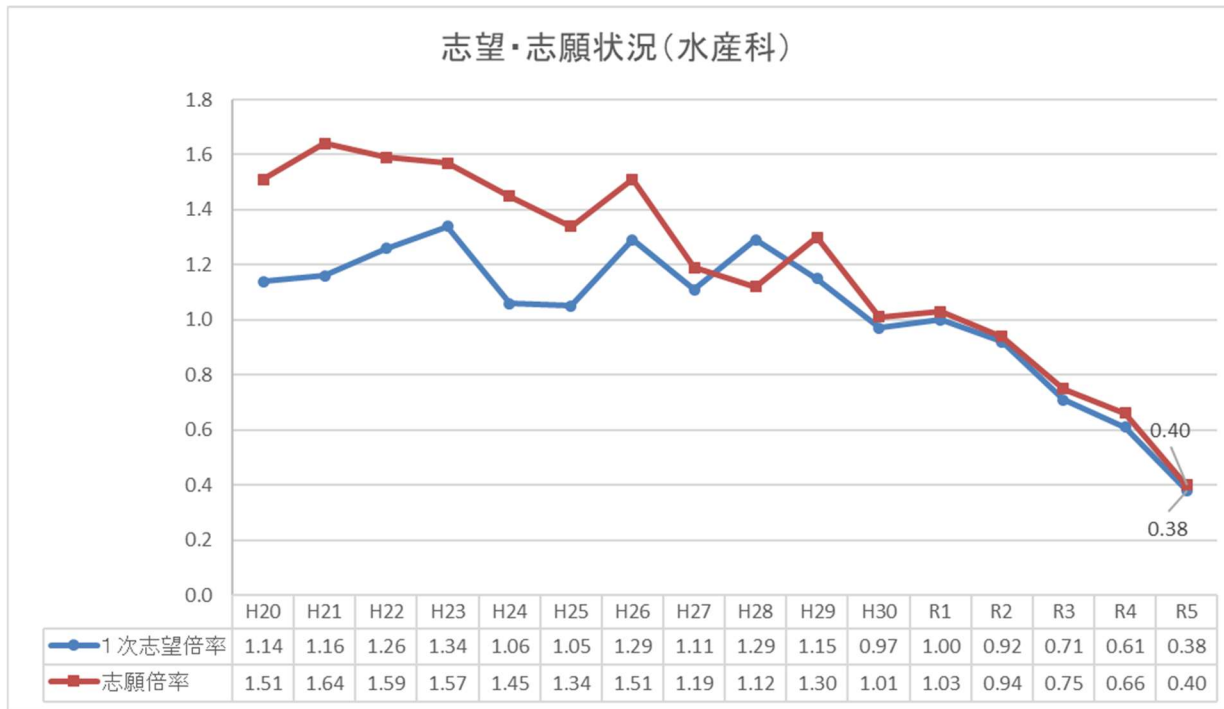
地区	設置校	小学科(R5 募集人数)
三八	八戸水産	海洋生産(35)、水産食品(35)、水産工学(35)

エ 小学科の概要

小学科名	学科の概要	学科に関する科目 (学校設定科目を除く)
海洋生産	漁船・商船の船長となるための知識、技術や漁獲の方法について学習。	漁業、航海・計器、船舶運用
水産食品	食品加工品の製造方法の知識、技術、生産者から消費者までの流通機構の仕組みなどについて学習。	食品製造、食品管理、水産流通
水産工学	エンジン・電気・冷凍機などの船舶や工場の機関関係、マシンオペレータについて学習。	船用機関、機械設計工作、電気理論

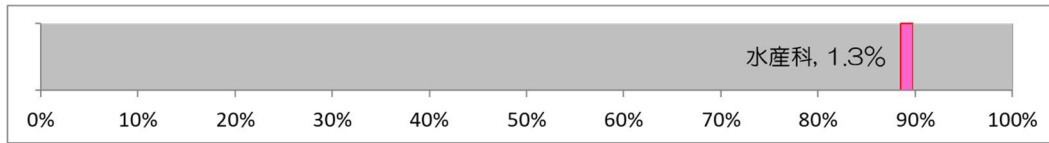
※ 専攻科（漁業科・機関科）を設置。海技従事者に必要な知識・技術を学び、上級海技士免許取得を目指す。

才 志望・志願状況

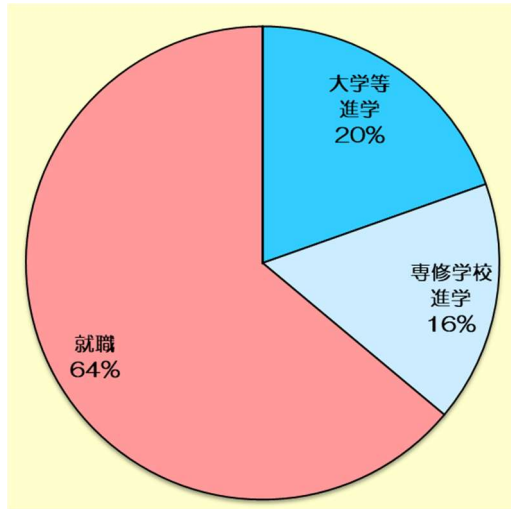


(進路志望状況第一次調査、県教育委員会HPより)

力 進路状況（令和4年3月卒業生）
〔全日制課程卒業者に占める水産科の割合〕



〔進路状況〕



(人)

卒業生数	大学等進学	専修学校進学	就職	一時的な仕事	その他
97	19	16	62	0	0

(学校基本調査、高等学校等卒業者の進路状況調査より)

〔大学等進学〕



※「その他」は専攻科

〔専修学校進学〕



〔就職〕



⑤家庭科

ア 青森県立高等学校将来構想検討会議における答申（平成28年1月）

- 今後とも、少子高齢化や雇用環境の変化などに伴い、生活産業の変化が予想されることから、地域の生活産業を支える人財を育成するため、これらの変化に対応した学科の在り方を検討する必要がある。
- 「食」や「服飾」などの専門分野の特色ある学習を通して、これからの時代に必要となるコミュニケーション能力や課題解決能力などを育てるため、小学校・中学校や地域等と連携した活動を推進する必要がある。

イ 大学科の概要

家庭の生活にかかわる産業に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、生活産業の社会的な意義や役割を理解させるとともに、生活産業を取り巻く諸課題を主体的、合理的に、かつ倫理観をもって解決し、生活の質の向上と社会の発展を図る創造的な能力と実践的な態度を育てることを目指す学科。

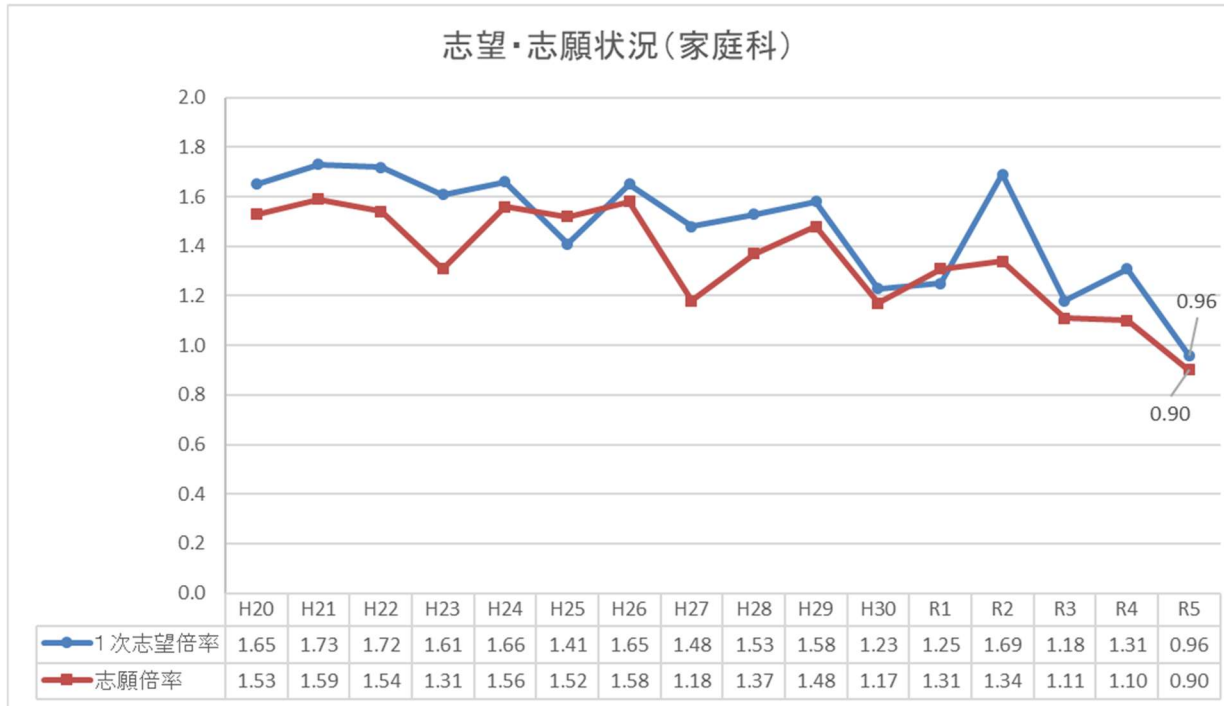
ウ 設置校（令和5年度に生徒を募集した学校：2校）

地区	設置校	小学科(R5 募集人数)
中南	弘前実業	家庭科学(40)、服飾デザイン(40)
上北	百石	食物調理(40)

エ 小学科の概要

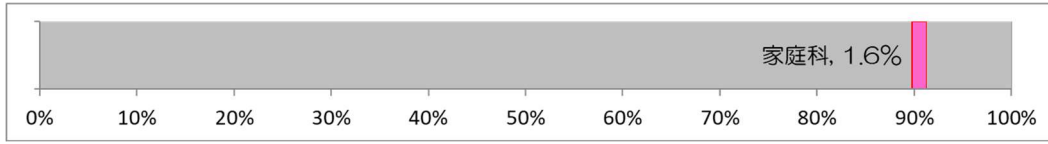
小学科名	学科の概要	学科に関する科目 (学校設定科目を除く)
家庭科学	フードデザイン、保育基礎、食文化、生活と福祉など生活文化に対する知識と技能を習得。	生活と福祉、フードデザイン、食文化
服飾デザイン	ファッション造形、ファッションデザイン、服飾文化などファッションに関する知識と技能を習得。	服飾文化、ファッション造形、ファッションデザイン
食物調理	調理師として必要な調理実習、栄養、食品衛生、公衆衛生などについて学習。	調理、栄養、食品衛生

才 志望・志願状況

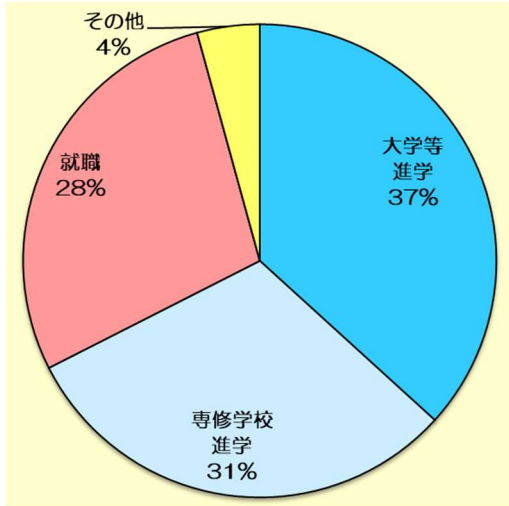


(進路志望状況第一次調査、県教育委員会HPより)

力 進路状況 (令和4年3月卒業者)
〔全日制課程卒業者に占める家庭科の割合〕



〔進路状況〕



(人)

卒業者数	大学等進学	専修学校進学	就職	一時的な仕事	その他
117	43	36	33	0	5

(学校基本調査、高等学校等卒業者の進路状況調査より)

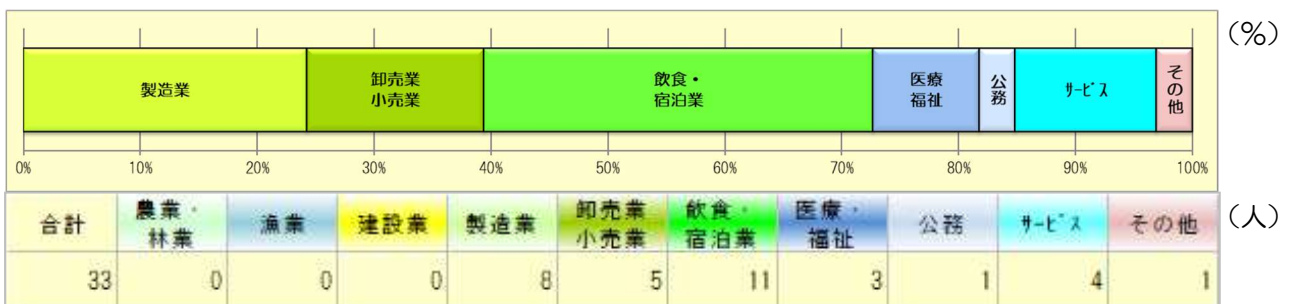
〔大学等進学〕



〔専修学校進学〕



〔就職〕



⑥看護科

ア 青森県立高等学校将来構想検討会議における答申（平成28年1月）

- 今後とも、地域の病院等の協力を得ながら、安定した看護師養成機関として、専攻科と一体になった5年一貫教育による看護師養成に取り組む必要がある。
- 専攻科修了後の大学編入については、国の制度改正を踏まえ、生徒の進路選択の充実に向け、適切に対応する必要がある。

イ 大学科の概要

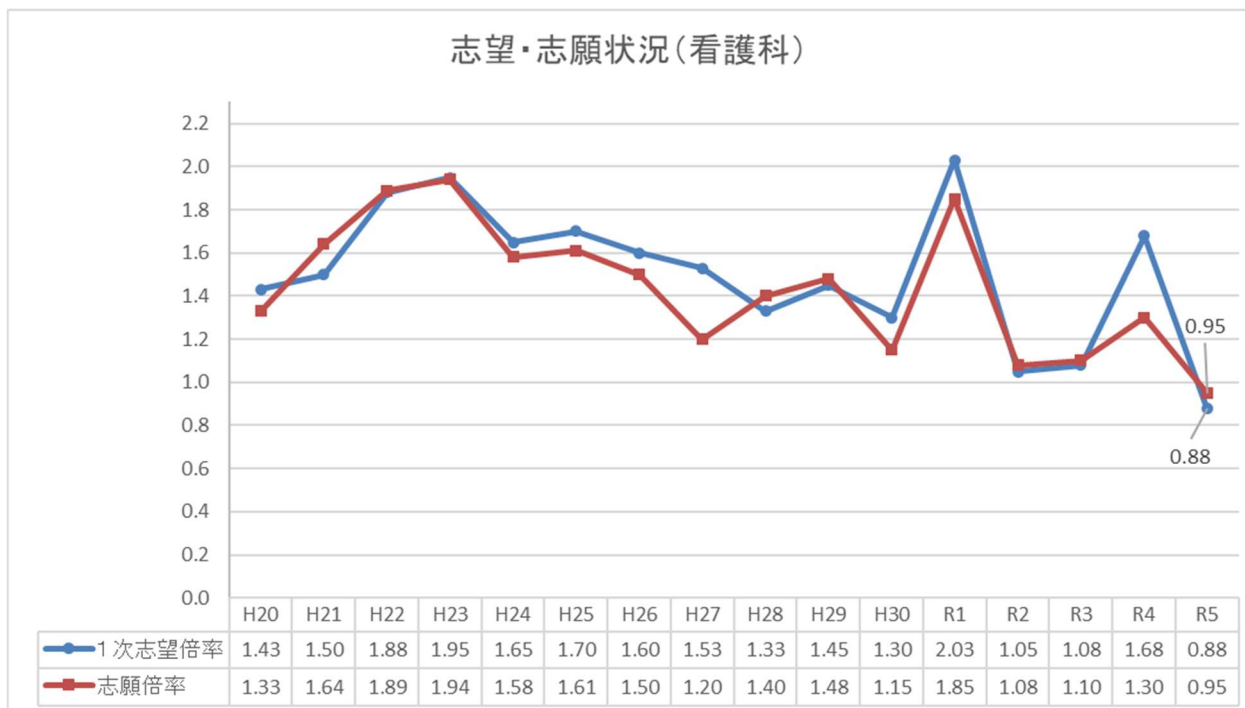
看護に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、看護の本質と社会的な意義を理解させるとともに、国民の健康の保持増進に寄与する能力と態度を育てることを目指す学科。

ウ 設置校（令和5年度に生徒を募集した学校：1校）

地区	設置校	小学科(R5 募集人数)
中南	黒石	看護(40)

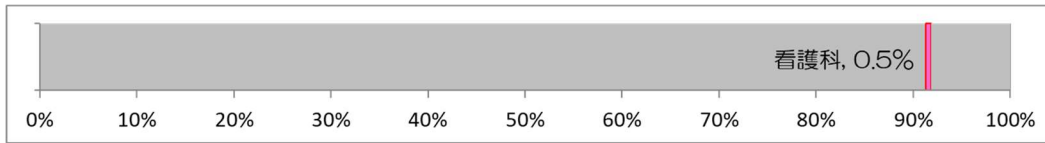
※専攻科を設置。5年一貫教育により、国家試験の受験資格を得ることができる。

エ 志望・志願状況

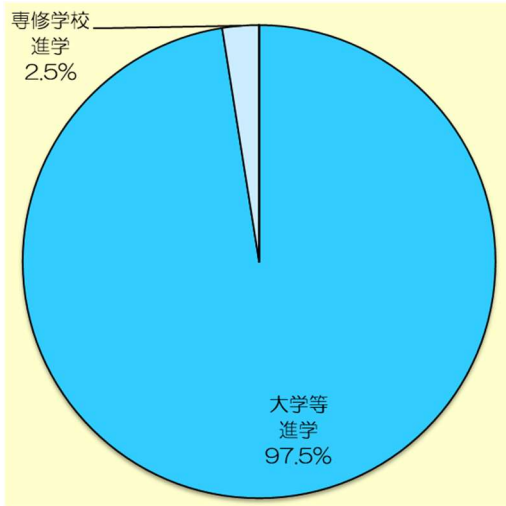


（進路志望状況第一次調査、県教育委員会HPより）

才 進路状況 (令和4年3月卒業者)
〔全日制課程卒業者に占める看護科の割合〕



〔進路状況〕



(人)

卒業者数	大学等進学	専修学校進学	就職	一時的な仕事	その他
40	39	1	0	0	0

(学校基本調査、高等学校等卒業者の進路状況調査より)

〔大学等進学〕

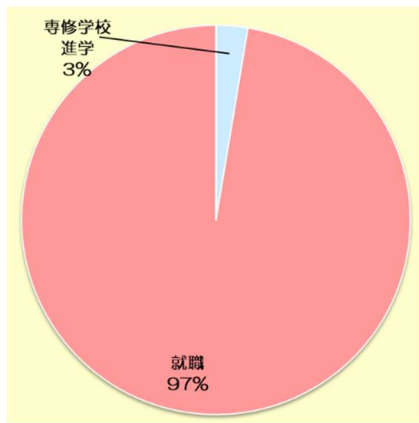


※「その他」は専攻科

〔専修学校進学〕



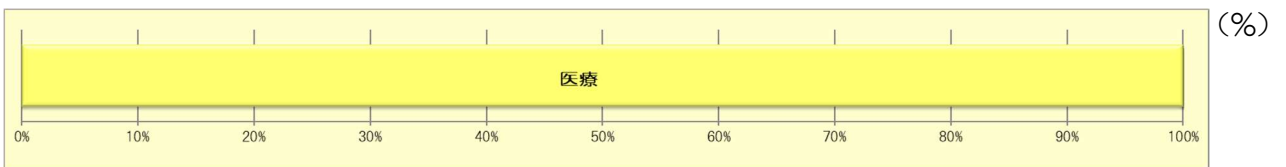
(参考：専攻科卒業生の進路状況)



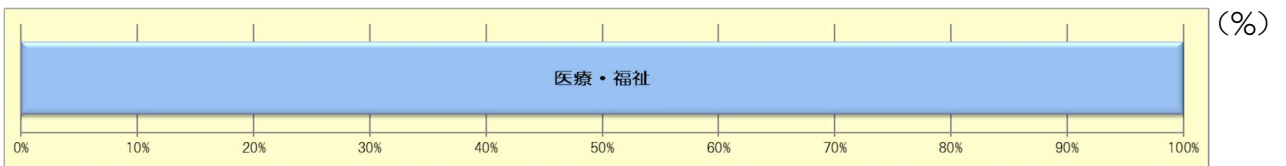
(令和4年3月卒業者) (人)

卒業生数	大学等進学	専修学校進学	就職	一時的な仕事	その他
38	0	1	37	0	0

〔専修学校進学〕



〔就職〕



(県教育庁高等学校教育改革推進室調べ)

(3) 総合学科

ア 青森県立高等学校将来構想検討会議における答申（平成28年1月）

- 普通科等及び職業教育を主とする専門学科に並ぶ選択肢として、大学進学志望者や就職志望者に対応できる教育課程を編成し、課題解決型学習を通じた主体的な学習のさらなる充実を図る必要がある。
このため、生徒のニーズを踏まえた系列となるよう見直しを進めるとともに、多様な選択科目の開設に向けて一定の規模とすることや、教員、施設・設備、運営費等の充実に加え、外部講師等の活用などについても検討する必要がある。
- また、総合学科としての教育内容の多様化を図ることが難しくなる場合には、他学科への改編を含め検討する必要がある。
さらに、総合学科以外の学校・学科を総合学科に改編することについては、今後の生徒のニーズ等を踏まえ検討する必要がある。

イ 県立高等学校教育改革推進計画基本方針
（平成28年8月策定 / 令和2年8月改定）

- 総合学科においては、普通科等及び職業教育を主とする専門学科に並ぶ選択肢として、大学進学志望者や就職志望者に対応できる教育課程を編成し、課題解決型学習による主体的な学習の充実を図ります。
- 系列については、生徒のニーズ等を踏まえ見直します。
また、多様な選択科目の開設に向けた教育環境の整備に加え、社会人や地域の有識者を講師として活用すること等に取り組みます。
- 総合学科から他学科への改編及び他学科から総合学科への改編については、生徒のニーズ等を踏まえ検討します。

ウ 大学科の概要

普通教育を主とする学科である「普通科」、専門教育を主とする学科である「専門学科」に並ぶ学科として制度化。

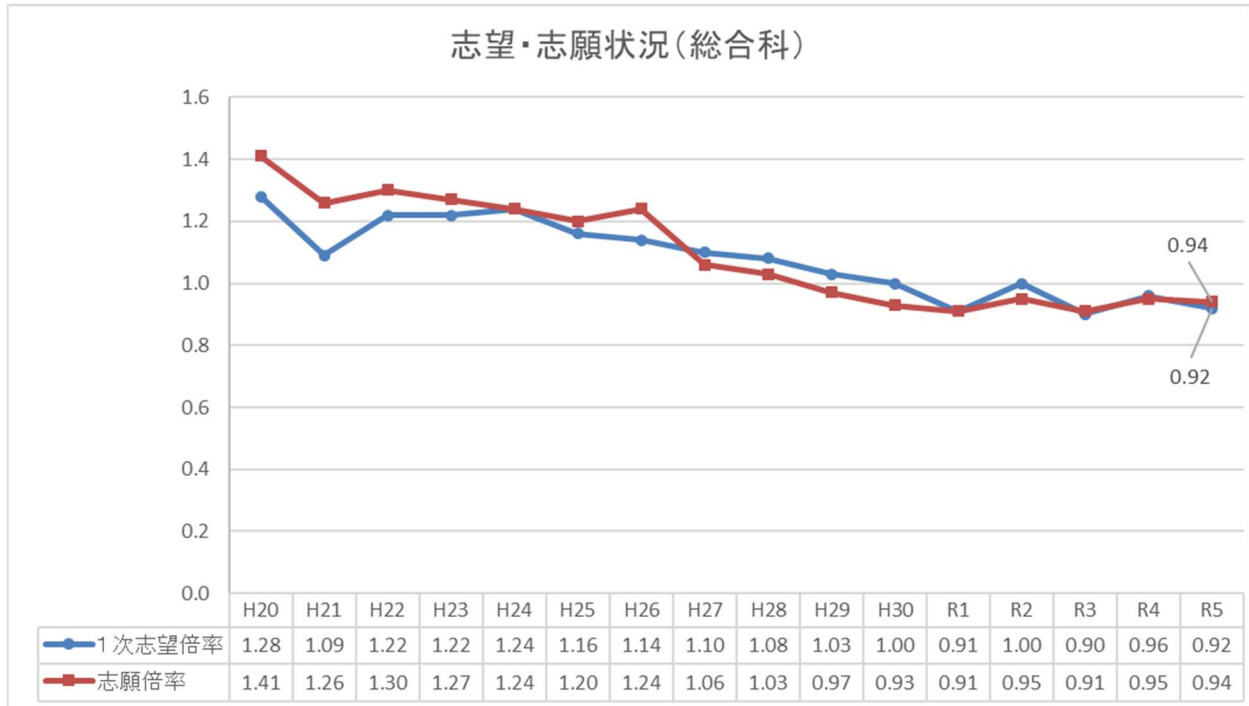
普通教科と専門教科の科目を幅広く開設し、生徒の主体的な選択による学習を通して、将来の生き方や進路に関する自覚を深め、職業観を育成することを目指す学科。

エ 設置校（令和5年度に生徒を募集した学校：4校）

地区	設置校	系列※（R5 募集人数）
東青	青森中央	人文科学、自然科学、生活科学、情報ビジネス、美術 (200)
西北	木造	人文科学、自然科学、流通ビジネス、情報システム (160)
上北	七戸	人文科学、自然科学、情報ビジネス、福祉健康 (120)
下北	大湊	人文科学、自然科学、情報ビジネス、健康福祉 (160)

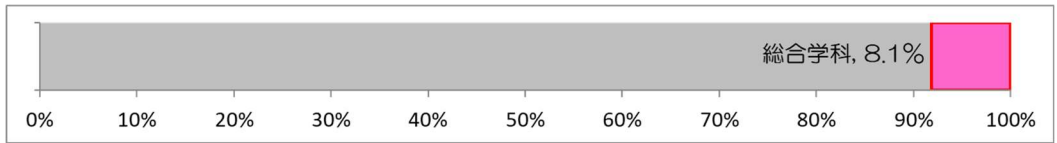
※系列 … 各高校が開設している科目について、生徒の科目選択の参考になるように関連する科目毎にまとめたもの。

才 志望・志願状況

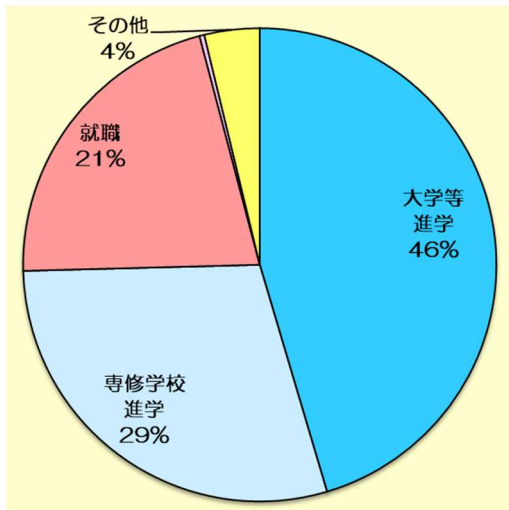


(進路志望状況第一次調査、県教育委員会HPより)

力 進路状況 (令和4年3月卒業生)
〔全日制課程卒業者に占める総合学科の割合〕



〔進路状況〕

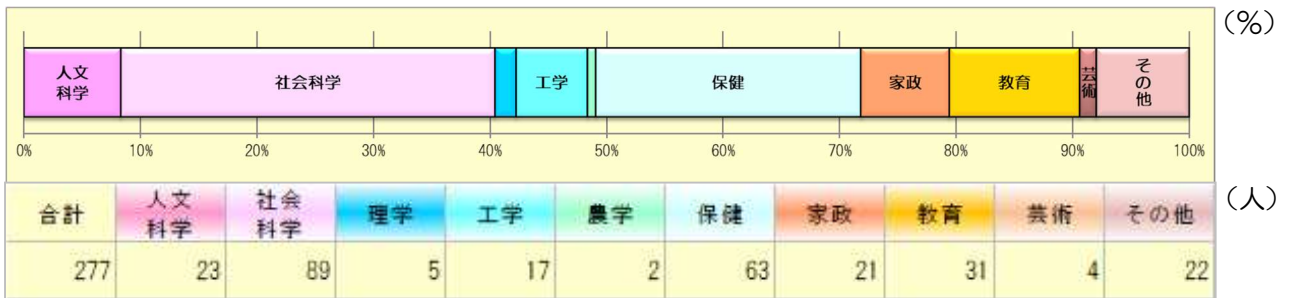


(人)

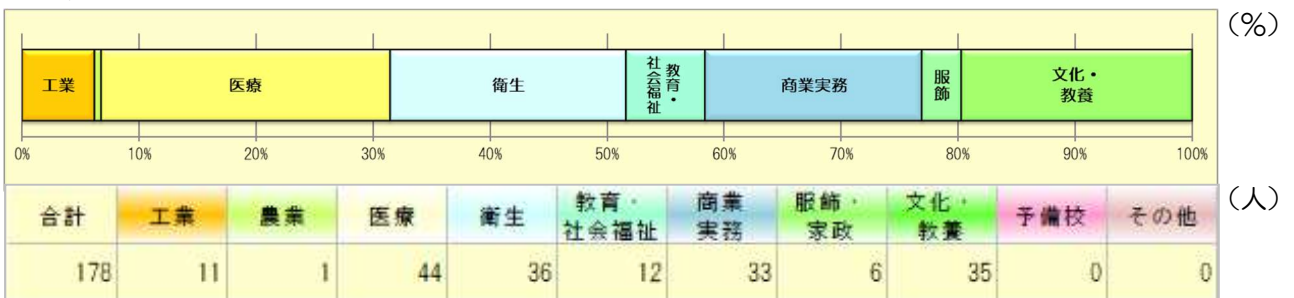
卒業生数	大学等進学	専修学校進学	就職	一時的な仕事	その他
610	277	178	130	2	23

(学校基本調査、高等学校等卒業者の進路状況調査より)

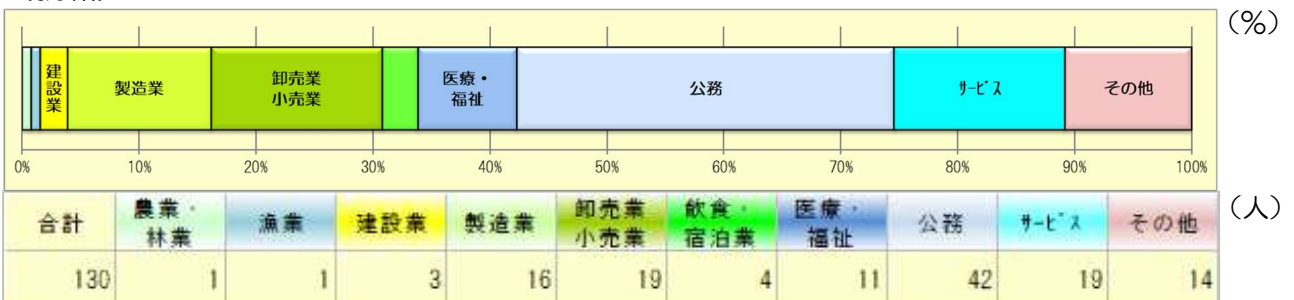
〔大学等進学〕



〔専修学校進学〕



〔就職〕



2 各高等学校における教育環境の充実

(1) 全ての高等学校に共通して求められる教育環境

ア 青森県立高等学校将来構想検討会議における答申（平成28年1月）

- 今後とも、生徒数が減少していく中であって、各高等学校においては、学習内容を充実させるとともに、課題の発見と解決に向けて主体的・協働的に学ぶアクティブ・ラーニング等による教育実践を進め、「確かな学力」を育む必要がある。
- このため、次のような教育環境を整備し、それぞれの役割に応じた人材育成に向け、各高等学校が連携しながら特色ある教育活動をさらに充実させ、本県高等学校教育全体の質の確保・向上を図る必要がある。
- 各高等学校においては、基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着を図るとともに、探究型学習等を通して課題解決能力を育成するなど、これからの時代に求められる力を生徒一人一人が身に付けるため、高等学校に求められる教育活動のさらなる充実に向けた教育環境の整備に努める必要がある。

イ 県立高等学校教育改革推進計画基本方針

（平成28年8月策定 / 令和2年8月改定）

- 高等学校は、中学校卒業後のほぼ全ての者が、社会で生きていくために必要となる力を共通して身に付けるとともに、自立に向けた準備期間を提供することのできる最後の教育機関であることから、「確かな学力」、「逞しい心」や学校から社会への円滑な移行に必要な力等を身に付けることが重要になっています。
このため、生徒数が減少していく中であっても、全ての高等学校において、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を通して、創意工夫を生かした特色ある教育活動を展開しながら、社会人・職業人として自立していくために必要な能力や態度を養うことができる教育環境を整備します。

ウ 主な取組等

<p>■ 深い学びにより主体的に未来を切り拓く高校生育成事業 (平成29～30年度)</p>
<p>【目的】生徒の学力向上、教師の資質向上、県内大学等との連携強化に向け、以下の取組を実施。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ○ 深い学び研究協議会の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・ 教員の資質向上を図る実践的研究協議会の開催 ・ 県内6地区の普通高校で採用後5年から10年程度の将来の中核教員を中心にWGを形成(教員ネットワーク) ・ 指導事例を配布し取組を普及 ○ 深い学び探究プログラム <ul style="list-style-type: none"> ・ 県内大学や企業の研究施設等と連携した2泊3日の理数体験合宿 ・ 能力育成ワークショップの実施 ○ 深い学び研究指定校の採択 <ul style="list-style-type: none"> ・ 県内6地区の普通高校12校を研究指定校とし、探究的学習活動を中心とした実践的授業研究 ・ 県内大学や企業の研究施設等との連携を推進 ・ 次期学習指導要領「総合的な探究の時間」の先進的取組を推進 ○ 深い学び合同発表会 <ul style="list-style-type: none"> ・ 県内高校の様々な成果発表会を一堂に会して実施課題研究の先進的取組を行う高校(理数・農業・工業・商業・家庭等)の研究発表 ・ 各校教員が参加することで全県に波及、中学生参加による意識醸成
<p>■ 未来社会を切り拓く高校生の資質・能力育成事業(令和元～2年度)</p>
<p>【目的】予測困難な時代に、青森県の課題解決につながる、未来社会を主体的に切り拓いていく人財を育成するため、以下の取組を実施。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ○ 研究指定校による地域課題解決に向かう資質・能力育成事業 各地区に研究指定校を置き、実践事例を蓄積・普及。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域で連携した取組の推進 地域資源の活用や地域課題等を扱う教科等横断的な学習 重点校を中心に、地区の学校間で連携した生徒交流及び教員研修 ・ ICT活用の推進 各教科等でのICTを活用した情報活用能力の育成を図る授業実践 ・ 探究する学習の推進 問題発見・解決能力の育成を図る授業研究 「総合的な探究の時間」、「理数探究」の実践研究 ○ 総合研究発表会 各地区や各学科等が一堂に会し、互いが切磋琢磨することで、教科等横断的学習の深化と青森県の課題解決に向けた新しいアイデアの創出を図る。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 各地区の研究指定校及び専門高校等の研究発表会 ・ 中学生、保護者、地域にも案内し、高校生の取組を発信

※ 総合研究発表会については、令和3年度以降、「進学力を高める高校支援事業」の中で継続実施。

<p>■ 地域と連携したキャリア教育推進事業（令和元～2年度）</p>
<p>【目的】学校・企業の自主的な取組の促進、早期離職の防止、県内就職という選択肢の増加、県内企業で働くイメージの確立に向け、以下の取組を実施。</p>
<p>○ キャリア形成育成プログラム 生徒一人一人が自らの生き方を考え、社会的・職業的自立ができるようにするための生徒の様々なキャリア教育の活動を記録・蓄積し、自己の活動を振り返るための教材及び指導事例を作成する。小・中・高校から大学等、就職や将来の生き方へのつながりを意識した各学校における系統的なキャリア教育を推進。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 研究協議会の開催等 ・ あおもり県版キャリア・パスポート及び指導事例集の作成 <p>○ 地域を支える人財育成プログラム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 専門高校（農業・工業等）の生徒を対象に県内企業で働く先輩方（若手・中堅・ベテラン）との座談会や外部講師による講演会を実施し、県内企業におけるキャリア形成や県内企業で働くことに対するイメージを持つことで、県内企業に対する理解を深める。 （座談会・講演会等の実施、学校ごとに実施） ・ 専門高校（農業・工業等）を対象に先端技術を有する県内企業の見学を行い、生徒・教員・保護者が県内企業への理解を深めることで、専門高校の特色を活かした企業選択、県内定着につなげる。 （学校ごとに実施、生徒・教員・保護者を対象に実施） <p>○ 県内企業理解促進プログラム 県内の高校（特別支援学校、私立高校含む）の生徒・教員・保護者による県内企業の訪問や、企業の採用担当者等との交流会の実施をとおして、高校と県内企業の相互理解を促進。 （県内6地区で実施、交流会と企業見学を1日で実施）</p>

<p>■ 産業教育の推進・人財育成事業（令和3～4年度）【商工労働部と連携】</p>
<p>【目的】産業人財の育成・県内定着を図るため、高校における産業教育の充実に資する取組や情報発信等、以下の取組を実施。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ○ 地元産業の研究 <ul style="list-style-type: none"> ・ 高校生による地元産業の研究 ・ 産業教育をサポートする地元企業リスト作成 ○ 県内産業教育機関のPR <ul style="list-style-type: none"> ・ 専門高校・大学の技術や研究の情報発信 ・ 中学生や保護者に対する産業教育のPR ○ 地元産業・企業の体験・紹介 <ul style="list-style-type: none"> ・ おしごと子どもチャレンジ （例）小中学生を対象とした県内企業体験 農芸品製作、工業製品製作、測量体験、食品製造等 ・ オンリーワン企業等紹介（世界に誇れる青森発の技術） （例）あおもりPG、あおもり藍、カルリン等 ・ すみよい青森魅力発信（食べ物・観光・暮らし等） ○ 産業教育フェア <ul style="list-style-type: none"> ・ フェア開催の周知広報活動 ・ プレ大会（令和3年度）の実施 （ロボット競技、クッキング、ファッションショー、技能検定） ・ 青森大会（令和4年度）の実施 （コンテスト大会、発表会、作品展示、実演体験）

(2)重点校

ア 青森県立高等学校将来構想検討会議における答申（平成28年1月）

- 今後とも、生徒数が減少していく中において、各高等学校においては、学習内容を充実させるとともに、課題の発見と解決に向けて主体的・協働的に学ぶアクティブ・ラーニング等による教育実践を進め、「確かな学力」を育む必要がある。
- このため、次のような教育環境を整備し、それぞれの役割に応じた人材育成に向け、各高等学校が連携しながら特色ある教育活動をさらに充実させ、本県高等学校教育全体の質の確保・向上を図る必要がある。
- 普通科等において、選抜性の高い大学への進学に対応した取組とともに、医師や弁護士等の高度な国家資格の取得に向けた志を育成する取組、グローバル教育や理数教育等の特定の分野の学習における先進的な取組等、今後求められる人材の育成に向けた特色ある教育活動の中核的役割を担う学校を「重点校」とし、その設置について検討する必要がある。
- 重点校の教育活動の充実のためには、生徒が主体的に選択して特定の教科・科目を重点的に学習し、多様な進路志望に対応することを目的とした単位制や、6年間の計画的かつ継続的な指導により、中学校段階からの探究的活動を通して、生徒の進路志望の達成を目指すことなどを目的とした併設型中高一貫教育の拡充等についても検討する必要がある。

イ 県立高等学校教育改革推進計画基本方針

（平成28年8月策定 / 令和2年8月改定）

- 全ての高等学校に共通して求められる教育環境の整備に加えて、次のような取組により、各高等学校が連携しながら特色ある教育活動を充実させ、本県高等学校教育全体の質の確保・向上を図ります。
- 普通科等の高等学校において、選抜性の高い大学への進学に対応した取組とともにグローバル教育や理数教育等の特定の分野の学習における先進的な取組等、今後求められる人材の育成に向けた特色ある教育活動の中核的役割を担う高等学校を普通科等の重点校（以下「重点校」という。）とします。
- 重点校が実施する教育活動への各高等学校の生徒の参加や、重点校の学習成果の共有等により、重点校と各高等学校が連携し、県全体の普通科等における教育の質の確保・向上を図ります。
- 重点校の教育活動の充実のため、単位制や併設型中高一貫教育の拡充等について検討します。

ウ 主な取組等

青森高校の取組例：即興型英語ディベート青森交流会

日時：平成30年7月28日～7月29日
 場所：青森高校
 参加：青森高校、青森南高校、弘前高校、弘前南高校、田名部高校、八戸高校、八戸聖ウルスラ学院高校の7校から37名

即興型英語ディベート青森交流会は、各校の生徒たちが3人1組のチームとなり、設定されたテーマについて肯定、否定側に分かれて英語で討論することにより、英語によるディベートの手法に慣れるとともに、各校の交流を行うものです。



生徒の感想

他校の生徒は、発音や語彙力が優れていると感じた。自分ももっと英語を勉強したい。



他校の生徒とディベートしてみて、それぞれの学校で主張や反論の仕方が違った。自分の学校内でディベートするより難しかった。



重点校 八戸高校の取組例：サイエンススタディープロジェクト

日時 令和元年6月9日 場所 八戸高校
 参加 八戸高校、八戸東高校、八戸北高校の3校から18名

サイエンススタディープロジェクトは、大学教授の方に研究の取り組み方や研究の姿勢について講義をいただいた後、各校の生徒が班ごとに分かれ、仮説を立て、実験し、振り返るといった研究の一連の流れを実際に行いながら、研究に必要な力を身に付けるものです。



生徒の感想

他校の生徒の假説を聞き、自分たちにはない様々なアイデアが出てきたのでとても面白かった。



講義を聞き、研究は仮説と改善を繰り返すことが大事だと気づいた。



重点校 弘前高校の取組：東京大学の学生によるオンラインセミナー

日程 令和2年12月5日 場所 弘前高校
 参加 弘前高校、弘前中央高校、弘前南高校の3校から21名



首都圏に比べ、情報不足等の制約を抱える地方の受験生と現役の東京大学の学生とがオンライン会議システムを活用し、交流することを通して効果的な学習方法や受験における心構えなどについて理解を深めることを目的とするものです。

生徒の感想

地方には都心の大学を志望する人や卒業生が少なく、情報を集めにくいため、自分から大学のHP等で情報を集めるようにしたいと思った。



現役の大学生から体験談等を聞き、地方からでも東京大学に合格するためにできることが沢山あることが分かったので、今後に活かしていきたいと思った。

重点校

【田名部高校の取組】
英語指導力向上研究会(オンライン)

日程: 令和3年9月17日 場所: 田名部高校
 参加: 七戸高校、野辺地高校、弘前南高校、六ヶ所高校、西北教育事務所、
 三沢市教育委員会、青森市立浪打中学校、むつ市立近川中学校から各1名



英語指導力向上研究会は、田名部高校が大学と連携しながら研究・開発した、コミュニケーション中心の英語の指導方法である「TANABU MODEL」をととして育成した知識・技能を評価するための定期考査のあり方について協議する研究会を実施し、県内中学校・高校の英語科教員の指導力向上を図るものです。

現在、新学習指導要領に基づいた考査作りについて検討中だったので、本研究会は大変興味深い内容でした。特に、田名部高校の先生方の試行錯誤を重ねた授業や評価方法に感銘を受けました。



講師である大学教授からの助言にあった、考査は教育活動の一環であって教育的フィードバックが一番重要であるとの観点や、生徒の状態を見取る重要性、CAN-DO リストの在り方など、とても参考になりました。

重点校 五所川原高校：探究ポスターセッション

日程: 令和4年11月24日 場所: 五所川原高校
 参加: 五所川原高校のほか、鱒ヶ沢高校、
 中学校関係者等から計38名

五所川原高校2年生が自分の興味・関心に基づくテーマについて研究・検証し、その結果をポスターにまとめて発表する会を開催しました。このことにより、五所川原高校生徒の探究する力や表現力を高めるだけでなく、他校の生徒や学校関係者との意見交換等を通じて、成果や探究活動の手法を共有しました。



発表会の様子

生徒の感想

鱒ヶ沢高校の生徒が参加し、質問・意見してくれたのが参考になった。またこのような機会があればもっと研究を深めることができると思う。



五所川原高校の生徒の研究の中に、複数の実験で比較検証しているものがあったので理解しやすかった。また、発表を聞いて、私にはない新しい考え方を得ることができた。

(「教育広報あおもりけん」より抜粋)

(3) 拠点校

ア 青森県立高等学校将来構想検討会議における答申（平成28年1月）

- 今後とも、生徒数が減少していく中において、各高等学校においては、学習内容を充実させるとともに、課題の発見と解決に向けて主体的・協働的に学ぶアクティブ・ラーニング等による教育実践を進め、「確かな学力」を育む必要がある。
- このため、次のような教育環境を整備し、それぞれの役割に応じた人材育成に向け、各高等学校が連携しながら特色ある教育活動をさらに充実させ、本県高等学校教育全体の質の確保・向上を図る必要がある。
- 職業教育を主とする専門学科において、特定の学科における専門科目を幅広く学ぶことのできる学校を「拠点校」とし、その設置について検討する必要がある。
- 具体的には、各地区の産業構造や今後の産業振興の方向性を踏まえ、農業教育、工業教育、商業教育等の特定の学科における拠点校を設置し、各学科における基礎的・基本的な知識・技能を身に付けるとともに、専門科目を幅広く学ぶことが可能となるよう、その取組等を推進する必要がある。

イ 県立高等学校教育改革推進計画基本方針

（平成28年8月策定 / 令和2年8月改定）

- 全ての高等学校に共通して求められる教育環境の整備に加えて、次のような取組により、各高等学校が連携しながら特色ある教育活動を充実させ、本県高等学校教育全体の質の確保・向上を図ります。
- 農業科、工業科及び商業科の高等学校において、各地区の産業構造や今後の産業振興の方向性を踏まえ、各学科における専門科目を幅広く学び、基礎的・基本的な知識・技能を身に付けるとともに専門的な学習を深め、各学科の学習の拠点となる高等学校を職業教育を主とする専門学科の拠点校（以下「拠点校」という。）とします。
 - ・ 農業科の拠点校においては、農産物の生産に加え、生産を支える環境、加工、流通等について学習できる環境を整備します。
併せて、寄宿舎の活用を含め、より広い地域の生徒が拠点校で学習できる環境について検討します。
 - ・ 工業科の拠点校においては、基幹となる学科（機械、電気、電子、建築、土木）を中心とした学科構成により、基礎的・基本的な知識・技能に加え、新しい技術を学習できる環境を整備します。
 - ・ 商業科の拠点校においては、普通科、総合学科等を含めた県全体の商業教育の拠点として、商業の学習分野であるマーケティング、マネジメント、会計、ビジネス情報の4分野に関する科目を幅広く学習できる環境を整備します。
- 拠点校が実施する教育活動への各高等学校の生徒の参加や、拠点校の学習成果の共有等により、拠点校と各高等学校が連携し、県全体の職業教育を主とする専門学科における教育の質の確保・向上を図ります。

ウ 主な取組等

青森商業高校の取組例：ウェブページ制作講習会

日時：平成30年8月24日～8月25日
 場所：青森商業高校
 参加：青森商業高校、弘前実業高校、黒石商業高校、三沢商業高校、八戸商業高校の5校から36名

ウェブページ制作講習会は、ウェブデザインや情報発信の工夫等に関する学習を通して、魅力的なウェブページを制作する知識と技術を身に付け、地元企業等との連携による実践的な電子商取引に活用できる能力の育成を目指すものです。

生徒の感想

ウェブサイトを作成する目的をしっかりと持つことが大切だと分かった。



私たちが掲載すれば良いと思った情報だけではなく、お客様が必要とする情報を把握して掲載することが大事だと感じた。



拠点校 五所川原農林高校の取組例：グローバルGAP認証取得支援

日時 令和元年7月23日 場所 柏木農業高校
 参加 五所川原農林高校、柏木農業高校の2校から16名



グローバルGAP認証取得支援は、認証に向けたノウハウを持っている五所川原農林高校の生徒が柏木農業高校を訪問し、取組状況の実践発表等の支援を行うことで、柏木農業高校が認証取得を目指すものです。

※グローバルGAP認証：農作物が安全であることを示す国際認証規格



生徒の感想

柏木農業高校の生徒が頑張っている姿を見て、自分も負けずまいようになりたいと思いました。

誰が見ても分かる看板を設置することや、リンゴの病害等の知識を身に付けることが大切だと分かった。



八戸工業高校の取組：地域から学び還元する工業教育 拠点校

日程 令和2年8月4日、11月5日 場所 八戸工業高校
 参加 八戸工業高校、十和田工業高校の2校から95名

十和田工業高校と連携し地域産業を深く考える高校生を育成するため、大学等から講師を招き、SDGsを意識した未利用熱エネルギーに関する講義や、旋盤及び電子回路組立に関する技能講習を実施するものです。



生徒の感想

専門家から研究に関するアドバイスをいただき充実した時間になった。また、十和田工業高校との交流は刺激になった。



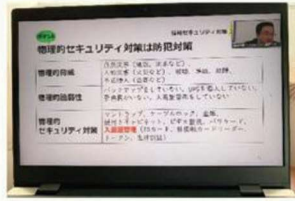
身の回りの生活には様々な工業技術が活かされていることを再確認することができた。これからは視野を広げて工業について学んでいきたいと思った。

拠点校

【青森商業高校の取組】 情報処理技術者試験対策講座リモート講習

日程：令和3年9月4日 場所：各家庭におけるリモート講習
参加：青森商業高校、黒石商業高校、三沢商業高校、八戸商業高校、
弘前東高校の5校から合計31名

情報処理技術者試験対策講座は、高度IT人材の育成を目的とした取組です。今年度は個人情報取扱担当者や企業の情報資産管理担当者を対象とした「情報セキュリティマネジメント試験」(国家資格)に関する講習を行いました。例年は津軽地区、県南地区の会場に集まって開催していますが、今年度は新型コロナウイルス感染防止対策として、県外講師の講義をリモート配信し、各校の生徒は情報端末を使って自宅で受講しました。



問題文から必要な情報を正確に読み取る力が必要であることを実感しました。今回学んだことを生かして、今後試験に臨みたいと思います。



問題文の中に必ずヒントがあることを知り、大変参考になりました。将来の夢であるセキュリティエンジニアを目指して、勉強を続けます!

拠点校 三本木農業恵拓高校：JGAP※認証公認審査会における交流活動

日程：令和4年9月1日 場所：名久井農業高校
参加：三本木農業恵拓高校、名久井農業高校の
2校から計28名

※JGAP…日本の生産環境を念頭に置いた農業生産工程管理の手法

昨年度、名久井農業高校がJGAPの認証を受ける際、三本木農業恵拓高校の生徒が認証に必要なノウハウを伝え、認証につながったところですが、今年度は、名久井農業高校のJGAP認証公認審査会に両校の生徒が参加することにより、生徒同士がお互いの成長を感じて刺激し合うとともに、認証に必要な知識を深めることができました。



書類審査の様子

生徒の感想

自分が担当しているJGAPのチェック項目を、どのように審査員に伝えればよいかを考えるのに苦労した。審査当日はとても緊張したけど、精一杯できた。



名久井農業高校の生徒が100個以上のチェック項目を細かいところまで覚えていて、自分たちも負けていけないと思った。JGAP認証取得に向けて頑張っていきたい。

(「教育広報あおもりけん」より抜粋)

ii 定時制・通信制の課程

1 定時制の課程

ア 青森県立高等学校将来構想検討会議における答申（平成28年1月）

- 定時制課程・通信制課程については、今後とも、様々な事情を抱える生徒に高等学校教育を受ける機会を提供する役割を果たしていくため、現状の配置の考え方を基本としながら、その充実について検討する必要がある。
- 定時制課程においては、特別支援学校との連携やスクールソーシャルワーカー等専門スタッフの配置の充実を図るとともに、普通科から総合学科への改編やコースの設定等について検討する必要がある。また、工業科については、生徒のニーズを踏まえ、設置意義等を含め、検討する必要がある。

イ 県立高等学校教育改革推進計画基本方針

（平成28年8月策定 / 令和2年8月改定）

- 定時制課程においては、生徒の多様な課題に対応するため、特別支援学校等との連携を進めるとともに、スクールソーシャルワーカー等専門スタッフによるよりきめ細かな支援体制を整備するなど、教育環境の充実を図ります。

ウ 概要

中学校を卒業して勤務に従事するなど様々な理由で全日制の高等学校に進学できない青少年に対して高等学校教育を受ける機会を与えるため創設された制度。

近年においては、全日制課程からの転・編入学者や過去に高等学校教育を受けることができなかった者など多様な入学動機や学習歴を持つ生徒が増えてきている。

〔3部制の定時制の課程〕

午前、午後、夜間等の時間帯で授業を行う3つの部で構成される定時制単位制高等学校。生徒はいずれかの部に所属し、4年で卒業することを基本としつつ、仕事の時間や学習スタイルに合わせて、他の部の授業を受けることなどにより3年での卒業も可能となる。

〔夜間の定時制の課程〕

従前からある定時制課程の形態。概ね午後5時過ぎから午後9時頃までに4時間の授業を行い、生徒は4年で卒業することを基本としつつ、定通併修により3年での卒業も可能となる。

※定通併修 … 定時制の課程に在学している生徒が通信制の課程で一部の科目を履修し、修得した単位を卒業に必要な単位に含めることができる制度。

工 設置校（令和5年度に生徒を募集した学校：6校）

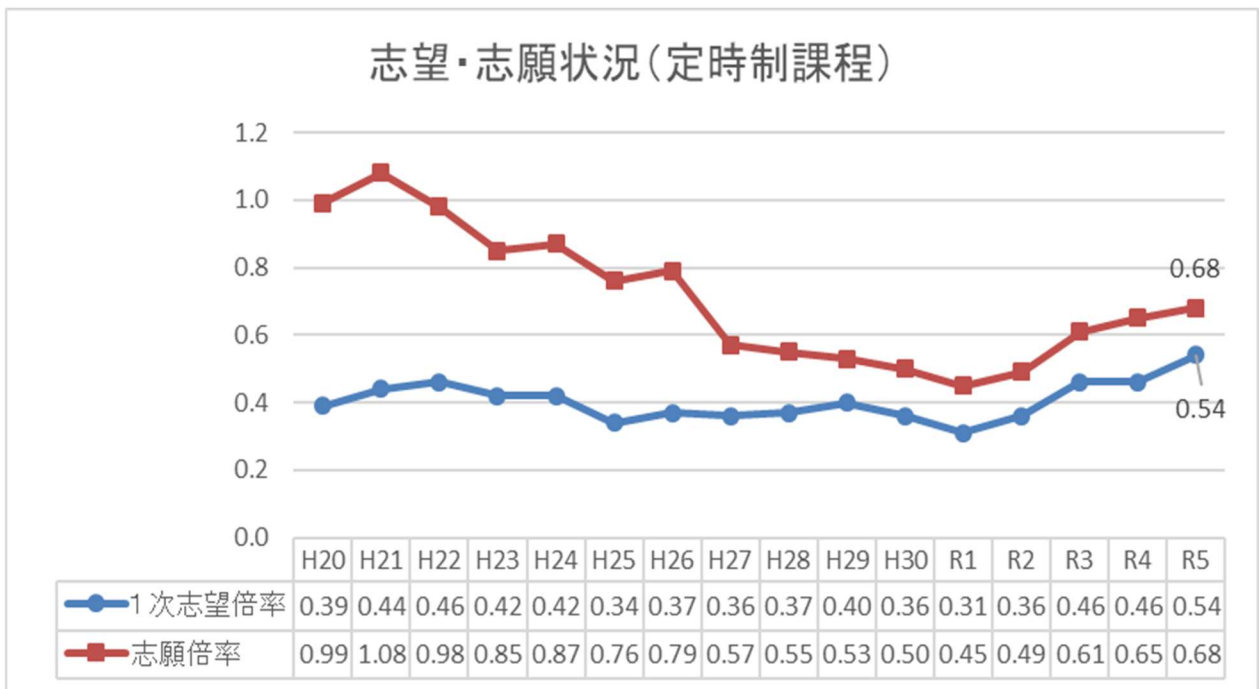
〔3部制の定時制の課程：3校〕

地区	設置校	学科等 (R5 募集人数)
東青	北斗	普通科：午前部(40)、午後部(40)、夜間部(40)
中南	尾上総合	総合学科：Ⅰ部(40)、Ⅱ部(40)、Ⅲ部(40) ※Ⅰ部とⅡ部を合わせて募集 〔系列：普通、商業、工業〕
三八	八戸中央	普通科：午前部(40)、午後部(40)、夜間部(40)

〔夜間の定時制の課程：3校〕

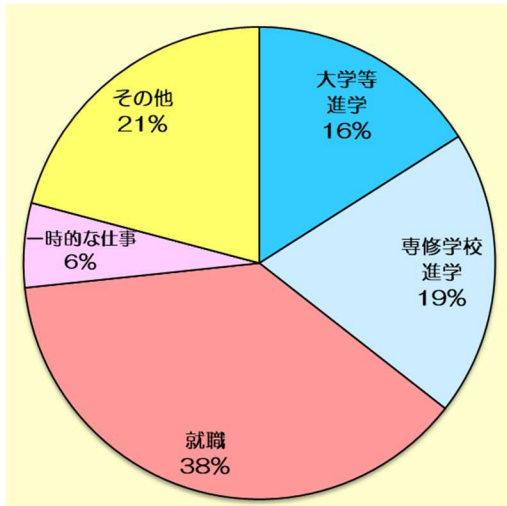
地区	設置校	学科等 (R5 募集人数)
西北	五所川原	普通科(40)
上北	三沢	普通科(40)
下北	田名部	普通科(40)

才 志望・志願状況



(進路志望状況第一次調査、県教育委員会HPより)

力 進路状況（令和4年3月卒業生）



(人)

卒業生数	大学等進学	専修学校進学	就職	一時的な仕事	その他
225	36	44	85	13	47

(学校基本調査、高等学校等卒業生の進路状況調査より)

〔大学等進学〕



〔専修学校進学〕



〔就職〕



2 通信制の課程

ア 青森県立高等学校将来構想検討会議における答申（平成28年1月）

- 定時制課程・通信制課程については、今後とも、様々な事情を抱える生徒に高等学校教育を受ける機会を提供する役割を果たしていくため、現状の配置の考え方を基本としながら、その充実について検討する必要がある。
- 通信制課程においては、高等学校入学後の進路変更の機会として、後期入学制度の導入について検討する必要がある。また、ICTを活用した教育方法について、研究を進める必要がある。

イ 県立高等学校教育改革推進計画基本方針

（平成28年8月策定 / 令和2年8月改定）

- 通信制課程においては、高等学校入学後の進路変更の機会としての後期入学制度の拡充やICTを活用した教育方法の導入等について検討し、教育環境の充実を図ります。

ウ 概要

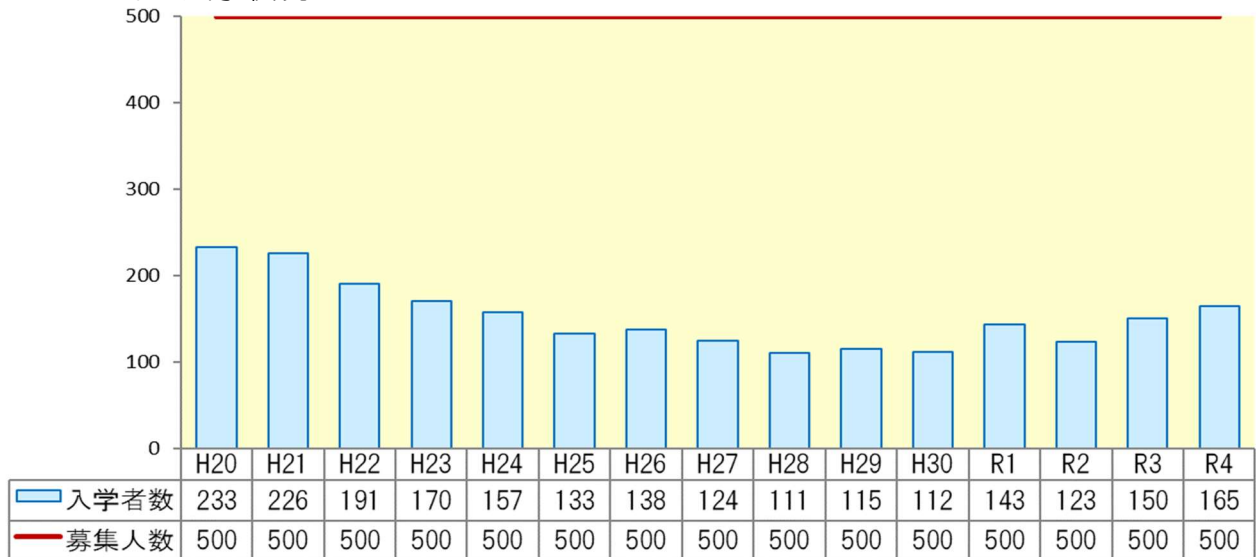
様々な事情により、全日制・定時制の高等学校に通学することができない青少年に対して、通信の方法により高等学校教育を受ける機会を与える制度。

近年においては、全日制課程からの転・編入学者や過去に高等学校教育を受けることができなかった者など多様な入学動機や学習歴を持つ生徒が増えている。

エ 設置校（令和5年度に生徒を募集した学校：3校）

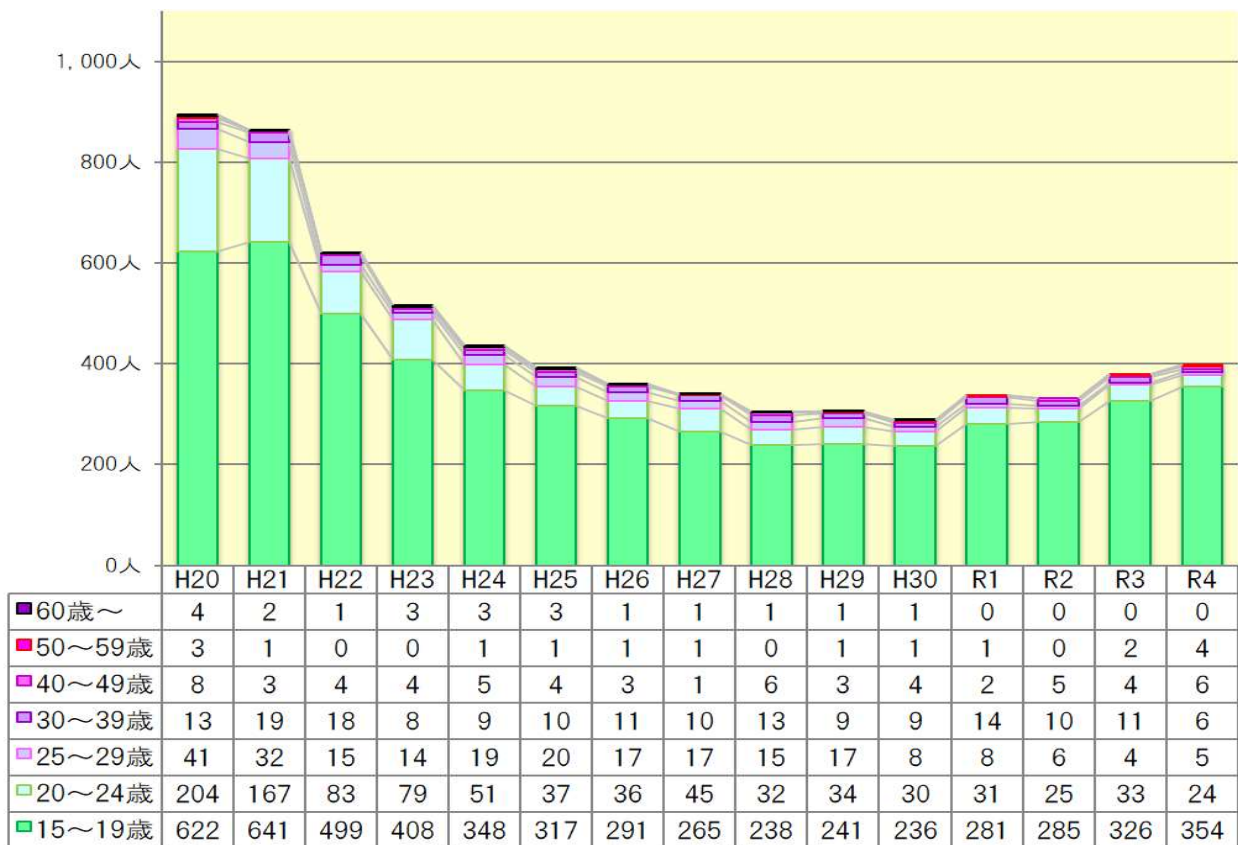
地区	設置校	学科等 (R5 募集人数)
東青	北斗	普通科 (200)
中南	尾上総合	普通科 (150)
三八	八戸中央	普通科 (150)

才 入学状況



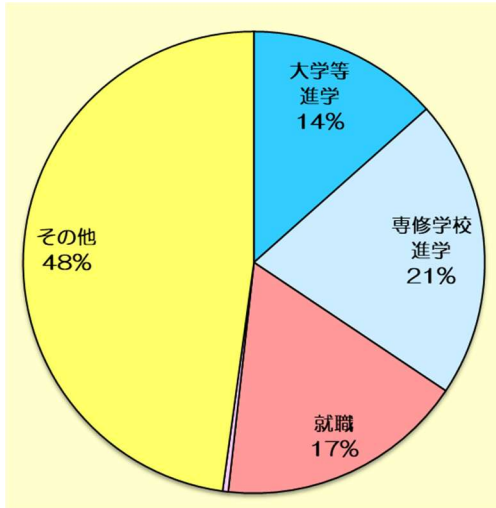
(学校基本調査より)

(参考：年齢別在籍生徒数の推移)



力 進路状況（令和4年3月卒業者。私立を含む。）

(人)



卒業生数	大学等進学	専修学校進学	就職	一時的な仕事	その他
253	34	53	44	1	121

(学校基本調査、高等学校等卒業者の進路状況調査より)

※「その他」とは、家事手伝いをしている者、外国の大学等に進学した者、進路が未決定の者等。

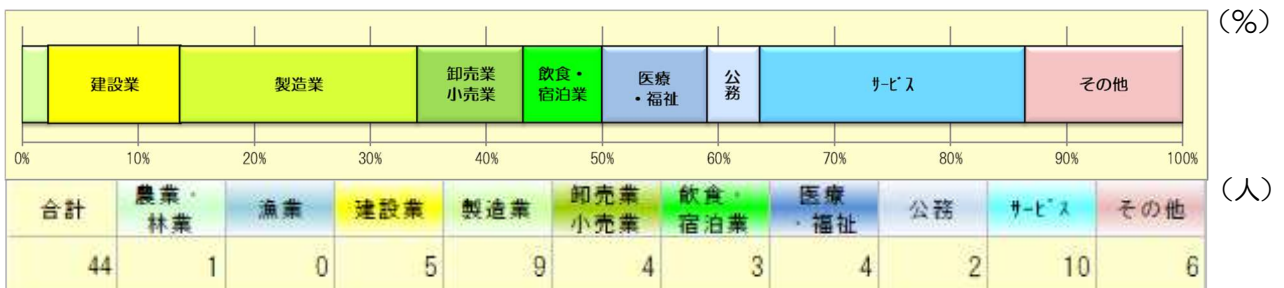
〔大学等進学〕



〔専修学校進学〕



〔就職〕



3 多様な教育制度の現状

(1) 全日制普通科単位制

ア 概要

全日制普通科において学年による教育課程の区分を設けず、決められた単位を修得すれば、卒業が認められる制度。生徒の選択による主体的な学習を通して、大学進学等の進路希望の達成を図る。

イ 導入校（4校）

地区	導入校	学科等（R5 募集人数）
東青	青森東	普通科(240)
中南	弘前南	普通科(200)
下北	田名部	普通科(200)
三八	八戸北	普通科(240)

ウ 教育課程の例

（年次ごとに修得する科目の単位数を表したもの。1単位は週1時間。）

単位数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34		
1年次	現代の国語	言語文化	歴史総合	数学Ⅰ	数学A	数学Ⅱ	物理基礎	生物基礎	英語コミュニケーションⅠ	論理・表現Ⅰ	体育	保健	音楽Ⅰ 美術Ⅰ 書道Ⅰ	家庭基礎	情報Ⅰ	総合的な探究の時間	ホームルーム活動																			
2年次	文型 論理国語	古典探究	地理総合	地理探究 日本史探究 世界史探究	公共	数学Ⅱ	数学B	数学Ⅲ 探究数学Ⅰ	数学Ⅲ 探究数学Ⅱ	化学基礎	化学	生物 物理	英語コミュニケーションⅡ	論理・表現Ⅱ	体育	保健	※1	総合的な探究の時間	ホームルーム活動	大学における年修																
2年次	理型 論理国語	古典探究	地理総合	公共	数学Ⅱ	数学B	数学Ⅲ 探究数学Ⅰ	数学Ⅲ 探究数学Ⅱ	数学Ⅲ 探究数学Ⅲ	化学基礎	化学	生物 物理	英語コミュニケーションⅡ	論理・表現Ⅱ	体育	保健		総合的な探究の時間	ホームルーム活動	大学における年修																
3年次	文型 論理国語	古典探究	地理探究 日本史探究 世界史探究	倫理 政治・経済	数学C	数学C	探究数学Ⅱ 探究数学Ⅲ	探究数学Ⅱ 探究数学Ⅲ	探究数学Ⅱ 探究数学Ⅲ	化学	化学	生物 物理	英語コミュニケーションⅢ	論理・表現Ⅲ	体育	※3	総合的な探究の時間	ホームルーム活動																		
3年次	理型 論理国語	古典探究	地理探究 倫理 政治・経済	数学Ⅲ 探究数学Ⅰ	数学C	数学C	探究数学Ⅱ 探究数学Ⅲ	探究数学Ⅱ 探究数学Ⅲ	探究数学Ⅱ 探究数学Ⅲ	化学	化学	生物 物理	英語コミュニケーションⅢ	論理・表現Ⅲ	体育		総合的な探究の時間	ホームルーム活動																		

必修科目
 自由選択科目
 自由選択科目のうち学校設定科目
 学校設定教科(希望者のみ選択)

- ※1 探究国語Ⅰ、探究音楽Ⅰ、探究美術Ⅰ、探究書道Ⅰ、国際理解Ⅰの5科目から1科目選択
- ※2 研究化学、研究生物、研究地学の3科目から2科目選択
- ※3 探究国語Ⅱ、探究音楽Ⅱ、探究美術Ⅱ、探究書道Ⅱ、国際理解Ⅱ、倫理、政治・経済の7科目から1科目選択

(2) 総合選択制

ア 概要

複数の学科を設置し、在籍する学科内の選択科目に留まらず、生徒の興味・関心や進路選択に応じて、他の学科の科目を含め、多様な科目選択を可能とする制度

イ 導入校（1校）

地区	導入校	学科等（R5 募集人数）
中南	弘前実業	商業科(80)、情報処理科(40)、家庭科学科(40)、服飾デザイン科(40)、スポーツ科学科(40)

ウ 教育課程の例

（年次ごとに修得する科目の単位数を表したもの。1単位は週1時間。）

単位数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
商業科	1年	現代の国語	公共	数学Ⅰ	化学基礎	体育	保健	芸術	英語コミュニケーションⅠ	家庭基礎	ビジネス基礎	簿記	情報処理	ホームルーム活動																
	2年	言語文化	歴史総合	数学Ⅰ	生物基礎	体育	保健	英語コミュニケーションⅡ	課題研究	マーケティング	財務会計Ⅰ	原価計算	ソフトウェア活用	総合選択	ホームルーム活動															
	3年	文学国語	地理総合	政治経済	数学A	物理基礎	体育	英語コミュニケーションⅡ	課題研究	総合実践	商品開発と流通	財務会計Ⅱ	ビジネス法規	総合選択	ホームルーム活動															

商業専門科目

総合選択科目

家庭科学科	1年	現代の国語	公共	数学Ⅰ	化学基礎	生物基礎	体育	保健	芸術	英語コミュニケーションⅠ	家庭総合	生活産業基礎	生活産業情報	ホームルーム活動
	2年	言語文化	歴史総合	数学Ⅰ	地学基礎	体育	保健	英語コミュニケーションⅡ	課題研究	保育基礎	フードデザイン	食文化	総合選択	ホームルーム活動
	3年	文学国語	地理総合	政治経済	数学A	生物化学	体育	英語コミュニケーションⅡ	課題研究	生活と福祉	フードデザイン	食文化デザイン	服飾手芸	総合選択

家庭専門科目

総合選択科目

スポーツ科学科	1年	現代の国語	公共	数学Ⅰ	化学基礎	保健	芸術	英語コミュニケーションⅠ	家庭基礎	情報Ⅰ	スポーツ概論	スポーツⅠ	スポーツⅡ	スポーツⅢ	スポーツⅣ	スポーツⅤ	スポーツⅥ	スポーツⅦ	スポーツⅧ	スポーツⅧ	スポーツⅧ	スポーツⅧ	スポーツⅧ	スポーツⅧ	スポーツⅧ	スポーツⅧ	スポーツⅧ	スポーツⅧ	スポーツⅧ	スポーツⅧ	スポーツⅧ	ホームルーム活動	
	2年	言語文化	論理国語	歴史総合	数学Ⅰ	生物基礎	保健	英語コミュニケーションⅡ	スポーツ概論	スポーツⅠ	スポーツⅡ	スポーツⅢ	スポーツⅣ	スポーツⅤ	スポーツⅥ	スポーツⅦ	スポーツⅧ	スポーツⅧ	スポーツⅧ	スポーツⅧ	スポーツⅧ	スポーツⅧ	スポーツⅧ	スポーツⅧ	スポーツⅧ	スポーツⅧ	スポーツⅧ	スポーツⅧ	スポーツⅧ	スポーツⅧ	スポーツⅧ	総合選択	ホームルーム活動
	3年	文学国語	地理総合	政治経済	数学A	地学基礎	英語コミュニケーションⅡ	スポーツ概論	スポーツⅠ	スポーツⅡ	スポーツⅢ	スポーツⅣ	スポーツⅤ	スポーツⅥ	スポーツⅦ	スポーツⅧ	スポーツⅧ	スポーツⅧ	スポーツⅧ	スポーツⅧ	スポーツⅧ	スポーツⅧ	スポーツⅧ	スポーツⅧ	スポーツⅧ	スポーツⅧ	スポーツⅧ	スポーツⅧ	スポーツⅧ	スポーツⅧ	スポーツⅧ	総合選択	ホームルーム活動

体育専門科目

総合選択科目

※総合選択科目の例

教科	2学年	3学年
商業	ビジネス・コミュニケーション、ソフトウェア活用	ビジネス・マネジメント、観光ビジネス、管理会計、商品開発と流通
情報	情報の表現と管理	
家庭	消費生活、フードクリエイト	保育基礎、生活と福祉、消費生活
体育	スポーツトレーニング	スポーツトレーニング
音楽		器楽
美術		構成
国語	論理国語	古典探究
芸術	音楽Ⅱ、美術Ⅱ、書道Ⅱ	臨書創作
英語	論理・表現Ⅰ	論理・表現Ⅱ

(3) 併設型中高一貫教育

ア 概要

同一の設置者による中学校と高等学校を接続し、6年間の計画的かつ継続的な一貫した教育指導を行うことにより、生徒の資質・能力を最大限に伸ばし、進路希望の達成を目指すことを狙いとする。

イ 導入校（1校）

地区	導入校	学科	併設中学校（R5 募集人数）
上北	三本木	普通科	三本木高等学校附属中学校(80)

ウ 主な取組等

- 高校と中学校間、学年や分掌及び教科間の連携
- 数学及び英語における高等学校の内容の先取り学習
- 高校教員の中学校への乗り入れ授業
- 中学校における各教科における補充学習
- 中学生による企業・大学見学
- 中高合同行事の実施 … 課題研究発表、協働学習会など
- 部活動の中高合同実施 … 合同練習と中3（夏季大会終了後）での高等学校部活動加入

II 教育活動の充実に向けた取組

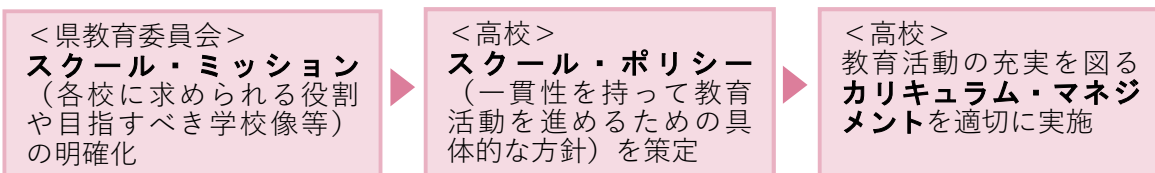
i スクール・ミッション等

1 趣旨

各校の特色ある教育活動の推進に資するよう、県教育委員会において、地域の実情を踏まえながら、各校に求められる役割や目指すべき学校像等をスクール・ミッションとして令和4年12月に決定した。

スクール・ミッションに基づき、一貫性を持って教育活動を進めるため、各校において、育成すべき資質・能力、教育課程の編成及び実施、入学者の受入れに関する具体的な方針をスクール・ポリシーとして、令和5年3月に策定した。

今後は、スクール・ポリシー等に基づき、教育課程を編成・実施・評価・改善するとともに、地域の人的・物的資源等を効果的に活用しながら、教科横断的な視点で組織的かつ計画的に教育活動の充実を図るカリキュラム・マネジメントを実施する。



2 対象校

全ての県立高等学校

ii 「あおもり創造学」の推進

1 趣旨

地域と協力しながら生徒一人一人の「ふるさとあおもり」への愛着や誇り、夢を抱き未来に向かって挑戦する意欲を醸成するため、「持続可能な地域づくり『あおもり創造学』プロジェクト事業」により、総合的な探究の時間等において、高校の所在する地域のみならず、自身が居住する地域や生まれ育った地域等について理解を深める学習である「あおもり創造学」を進める。

2 推進校

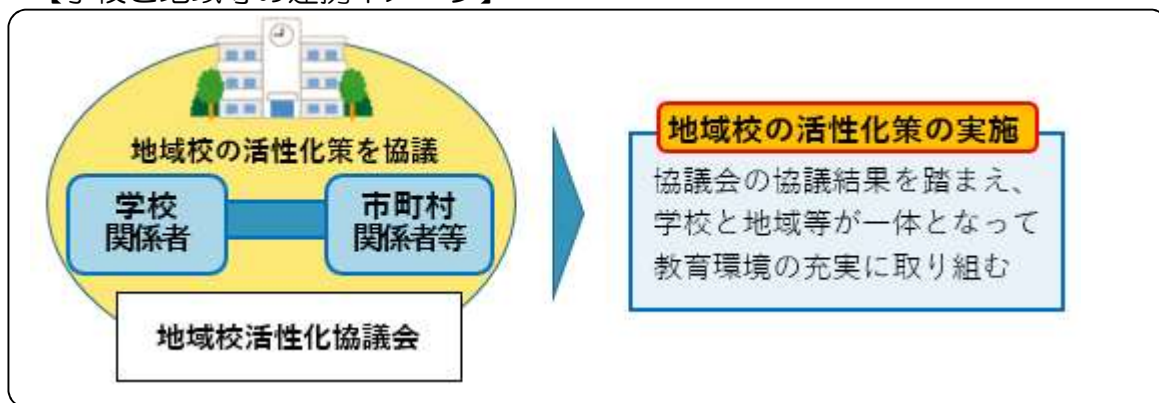
令和4年度：26校、令和5年度：全ての県立高等学校

iii 地域校の活性化

1 趣旨

地域校の活性化に向け、学校関係者と市町村関係者等で構成する地域校活性化協議会における協議結果等を踏まえ、地域等と連携・協力しながら、自然、歴史、文化、産業等の地域資源を活用した教育活動や地域課題の解決に向けた教育活動を進めるなど、学校と地域等が一体となって教育環境の充実に取り組む。

【学校と地域等の連携イメージ】



2 対象校

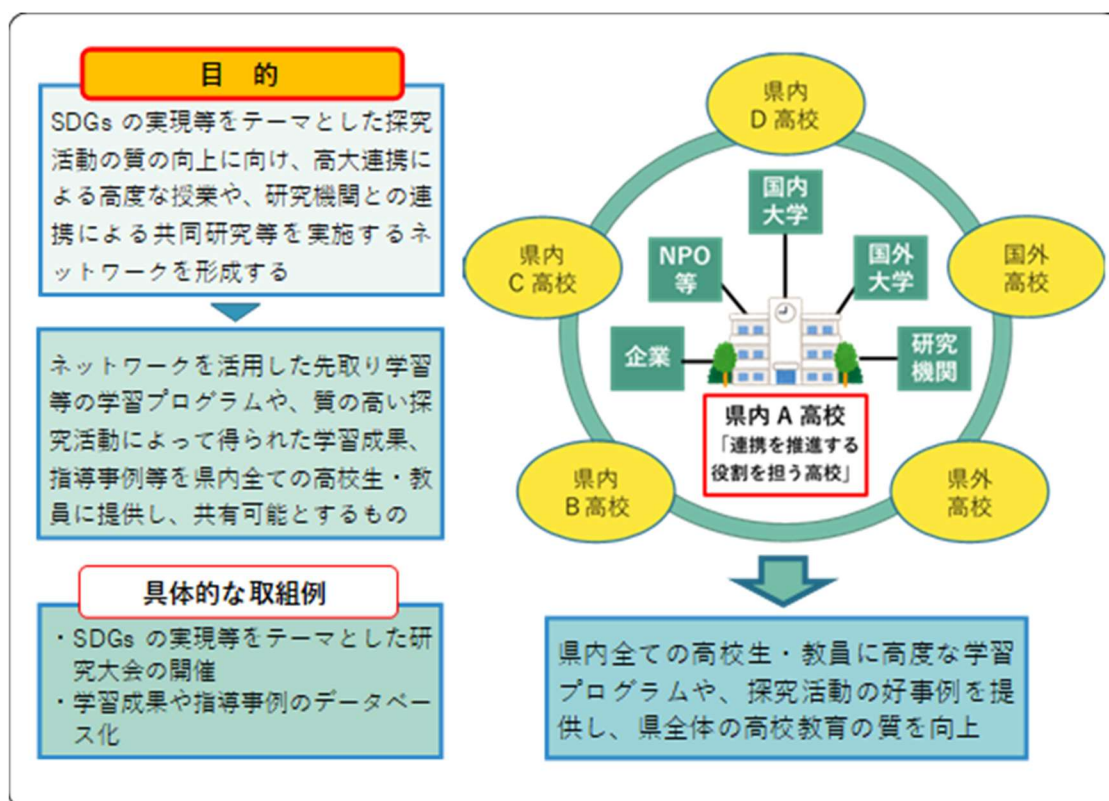
鱒ヶ沢高校、六ヶ所高校、大間高校、三戸高校

iv コンソーシアム（共同事業体）の構築

1 趣旨

グローバルな社会課題に係る探究活動や高校段階から大学レベルの教育・研究に取り組むなど、生徒の進路志望に応じた高度な学びを提供するため、国内外の高校や大学等と連携したコンソーシアムの構築等を進める。

【共同事業体（コンソーシアム）の構築イメージ】

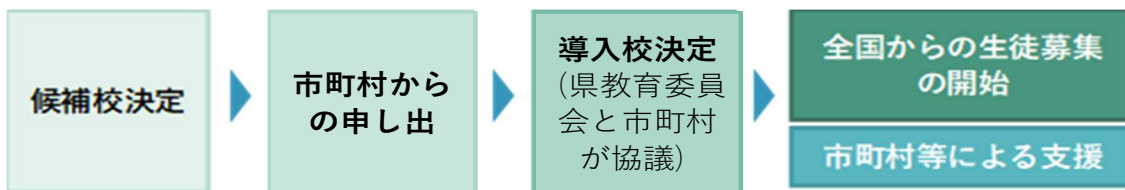


v 全国からの生徒募集

1 趣旨

県外から目標を持った生徒を受け入れることにより、高校の活性化を進めるため、高校が所在する市町村の意向等を踏まえながら、全国からの生徒募集を実施する。

導入校の決定方法
<p>以下のいずれかに該当する高校（候補校）のうち、高校が所在する市町村から支援を前提とする申し出があった高校について、県教育委員会と市町村が協議した上で導入校として決定</p> <p>①第2期実施計画において地域校とする高校 ②過去5年の定員充足率の平均が90%以下の高校 （第2期実施計画における統合対象校を除く）</p>



2 導入校

鱒ヶ沢高校、柏木農業高校、大間高校、三戸高校、名久井農業高校

vi ドリカム人づくり推進事業

1 趣旨

児童生徒の夢の実現や地域の活性化に向けて、児童生徒のアイデアを取り入れ、向上心や積極的に学ぶ意欲などチャレンジする心をはぐくむ事業を企画・展開する県立学校を推進校に指定し、「人づくり」を目指した活力あふれる学校づくりを推進する。

また、県全体の普通科等における教育の質の確保・向上に向けた重点校と各校との連携や、県全体の職業教育を主とする専門学科における教育の質の確保・向上に向けた拠点校と各校との連携を推進するため、推進校を指定し、取組を支援する。

2 推進校

県立学校18校程度（毎年度指定）

vii スーパーサイエンスハイスクール（文部科学省事業）

1 概要

将来の国際的な科学技術関係人材を育成するために、先進的な理数系教育を実施する高等学校等をスーパーサイエンスハイスクール（SSH）として、文部科学省が指定し、学習指導要領によらないカリキュラムの開発・実践や課題研究の推進、観察・実験等を通じた体験的・問題解決的な学習等を支援する事業。

平成14年度から実施し、令和4年度末現在、全国で290校を指定（文部科学省HPより）。

2 本県の指定校及び主な取組

■ 県立弘前南高等学校（平成28年度～令和4年度）

- 1年次の全生徒が共通テーマで探究活動に取り組み、「探究の方法・プロセス」について学習する。
- 2年次の全生徒に対して、講演会・講座を複数回実施し、地域課題について学ぶ。
- 3年次は、SSHクラス（南陵ラボⅢ）において、理科の応用実験を行い、課題研究の内容を英語で発表することにより、科学的な想像力や発信力を高める。

また、2・3年次のSSHクラス（南陵ラボⅡ・Ⅲ）において科学教育プロジェクト（研究課題）に取り組み、科学的な思考力、実践力、創造力、発信力をより高め、国際的な視野を持った科学技術人材を育成する。

■ 県立青森高等学校（平成29年度～）

- 第1学年の全生徒を対象に、学校設定科目「プロジェクト学習」として、特定のテーマに基づく知識を身に付け、テーマと課題の違いを学んだのち、感心に応じてグループを形成し、3年間を通じて取り組む課題研究の課題を設定する。
- 第2学年理型生徒を対象に、学校設定科目「SS探究」として、科学的な課題研究を行う上で必要となる力を育み、研究内容をより充実したものとするためのスキルアップを行う。また、文型と合同で文理融合型の課題研究に取り組む。
- 第3学年理型生徒を対象に、学校設定科目「SS創造」として、SS探究を通じて育んだ力を活用し、1年間かけて実践してきた課題研究に人文・社会的視点からの考察を加えて内容を深化させ、個別に報告書を作成する。
- その他、第1学年生徒及び第2・3学年理型希望生徒を対象に、放課後ラボ、科学技術体験セミナー、企業・研究所体験研修、研究大会・発表会等への参加、海外研修、サイエンス教室、フィールドワーク等に取り組む。

viii スーパーグローバルハイスクール（文部科学省事業）

1 概要

急速にグローバル化が加速する現状を踏まえ、社会課題に対する関心と深い教養に加え、コミュニケーション能力、問題解決力等の国際的素養を身に付け、将来、国際的に活躍できるグローバル・リーダーを高等学校段階から育成することを目的に、大学、企業、国際機関等と連携を図り、グローバルな社会課題を発見・解決できる人材や、グローバルなビジネスで活躍できる人材の育成に取り組む高等学校等をスーパーグローバルハイスクール（SGH）として、文部科学省が指定し、質の高いカリキュラムの開発・実践やその体制整備を進める事業。

平成26年度から平成28年度までの間、全国で123校を指定（文部科学省HPより）。

2 本県の指定校及び主な取組

■ 県立青森高等学校（平成26年度～令和3年度）

- 本県の全方位的な海上アプローチの良さと物流拠点としてのポテンシャルという大きな強みを生かした青森県ロジスティクス（※）戦略を視野に入れ、青森県の農林水産物・伝統工芸品などの世界各国への販路拡大、青森県への観光客誘致等を探究型学習の課題とする。
- 「多様性の理解に基づき課題を設定する力」「グローバルマインドに基づく企画力」「ビジネスモデルの開発による理論と実践を融合する力」の3つの力の育成を目標とした教育プログラムを開発する。
- 青森中央学院大学の東南アジアからの留学生やニュージーランド・ローズヒルカレッジ高等学校、アメリカ・メイン州ホールデル高等学校との協同学習やディスカッション等を通じて、異文化の中でのチームワークや相互尊重の態度を培う。

※ロジスティクス… 原材料の調達、生産、保管、販売、情報などの全体的な流れを統合的なシステムとして動かすこと。